

「障がい者計画」・「障がい福祉計画」・「障がい児福祉計画」
策定のための

アンケート結果報告書【市民意識調査】

令和5年2月

鳴門市

目 次

第1章 調査概要.....	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法	1
3. 回収結果	1
4. 数値等の基本的な取扱いについて	1
第2章 調査結果.....	2
1. 年齢	2
2. 性別	2
3. お住まいの地区	3
4. 障がいのある人との関わりについて	4
5. 障がいのある人への差別・権利擁護について	6
6. 障がいのある人の地域生活について	13
7. 障がいのある人への手助けについて	19
8. 障がいのある人の就労について	29
9. 障がいのある児童・生徒の教育について	33
10. 障がいのある人への虐待について	40
11. 市の施策について	43
調査票.....	47

第1章 調査概要

1. 調査の目的

鳴門市障がい者計画、第7期鳴門市障がい福祉計画及び第3期鳴門市障がい児福祉計画を策定するにあたり、本調査を通して市民の皆様の障がい福祉に関する考えや意見をうかがいました。

2. 調査の方法

(1) 調査対象

18歳以上の市民

(2) 抽出方法

令和4年10月現在、市内在住の18歳以上の市民の中から700人を無作為抽出

(3) 調査方法

郵送による調査票の配布・回収

(4) 調査期間

令和4年12月13日～12月27日

3. 回収結果

(1) 配布数 700 票

(2) 回収数 241 票

(3) 回収率 34.4%

4. 数値等の基本的な取扱いについて

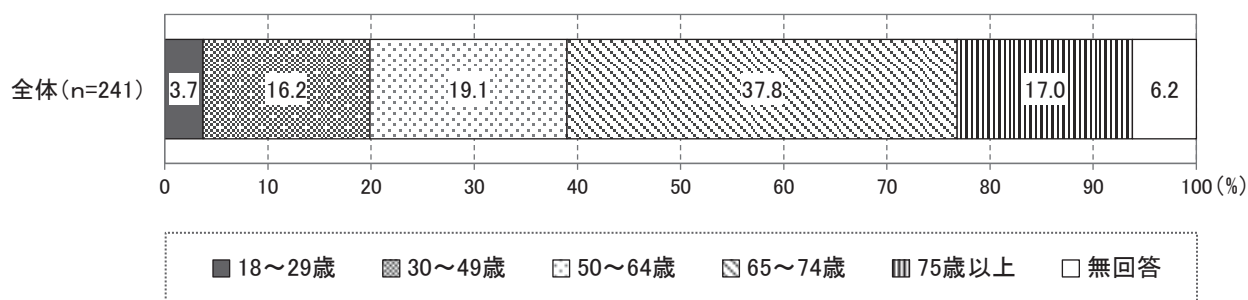
- ・比率は全て百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- ・基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。（回答者総数または該当者数）
- ・質問の終わりに【複数回答可】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問であるため、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ・文中、グラフ中の設問カテゴリー（選択肢）の文言は、一部簡略化する場合があります。
- ・文中、グラフ中の数値や選択肢の文言は、一部省略・簡略化してあります。また、割合が0%であった箇所の数値は、一部を除いて基本的に省略しています。

第2章 調査結果

1. 年齢

問1 あなたの年齢は満何歳ですか。(令和4年11月1日時点)

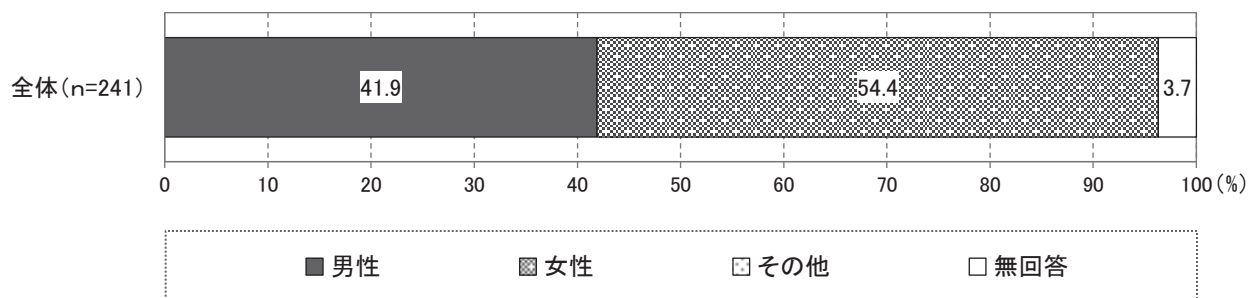
「65～74歳」が37.8%と最も高く、次いで、「50～64歳」(19.1%)、「75歳以上」(17.0%)の順となっています。



2. 性別

問2 性別をお答えください。

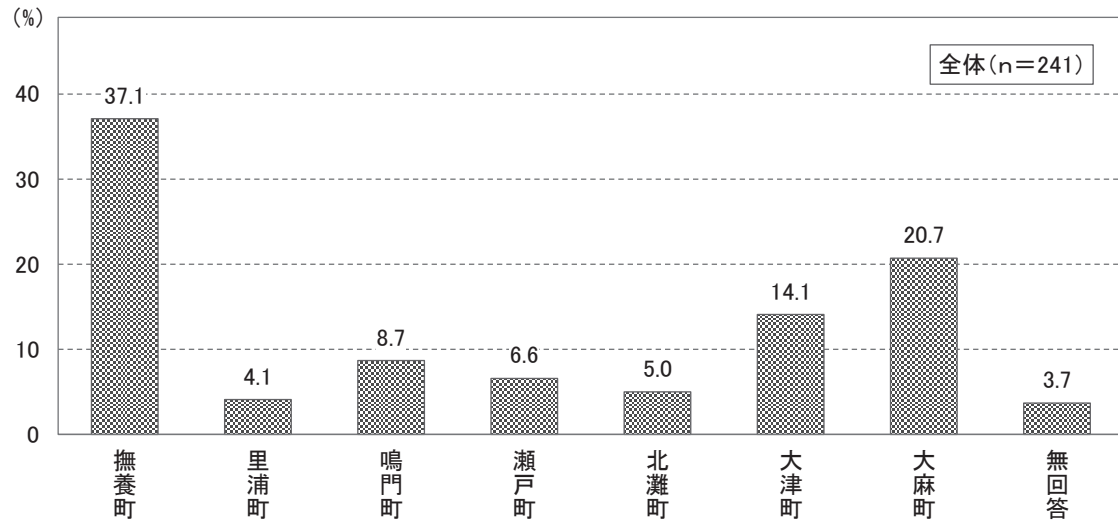
「男性」が41.9%、「女性」が54.4%となっています。



3. お住まいの地区

問3 お住まいの地区（町）をお答えください。

「撫養町」が37.1%と最も高く、次いで、「大麻町」（20.7%）、「大津町」（14.1%）の順となっています。

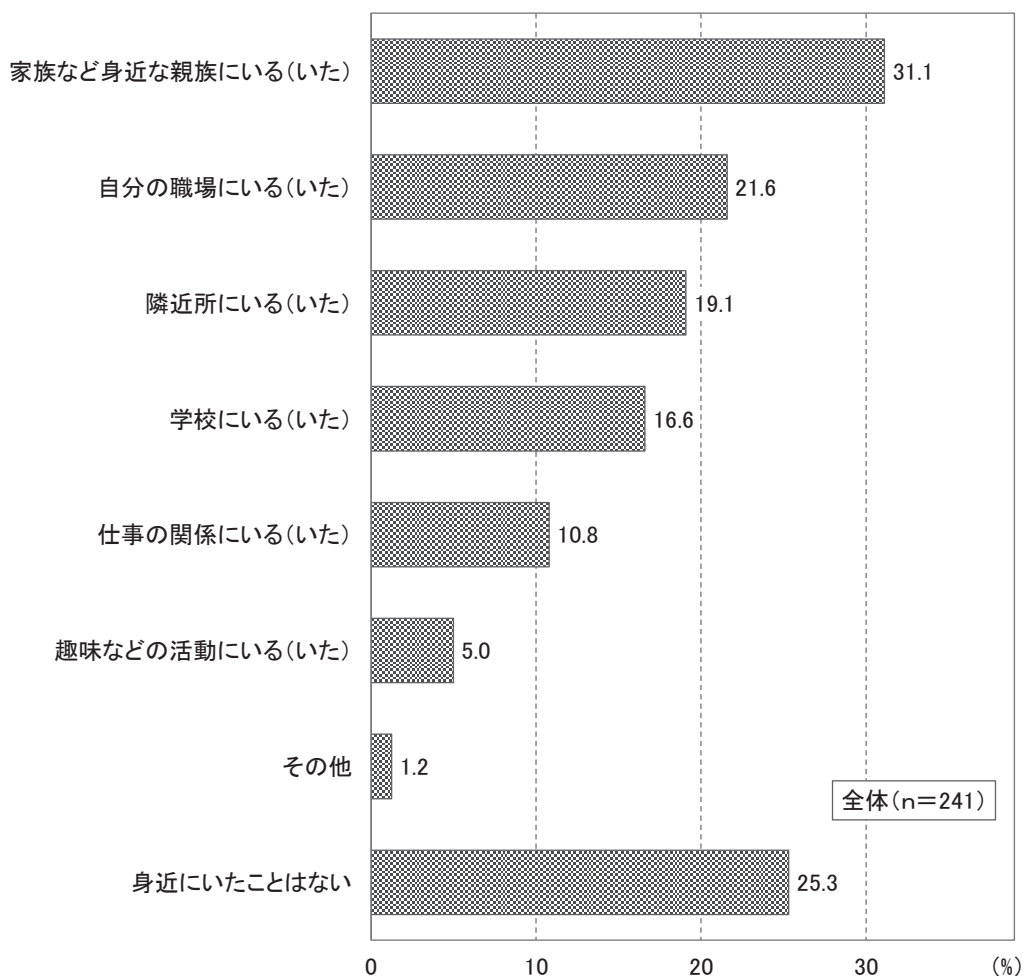


4. 障がいのある人との関わりについて

問 4

あなたの身近に障がいのある人がいますか。または、これまでにいたことがありますか。【複数回答可】

「身近にいたことはない」が25.3%と割合が高くなっていますが、身近に障がいのある人がいる(いた)で見ると、「家族など身近な親族にいる(いた)」が31.1%と最も高く、次いで、「自分の職場にいる(いた)」(21.6%)、「隣近所にいる(いた)」(19.1%)の順となっています。



主なその他意見

- ・ 知人の家族。
- ・ 施設。

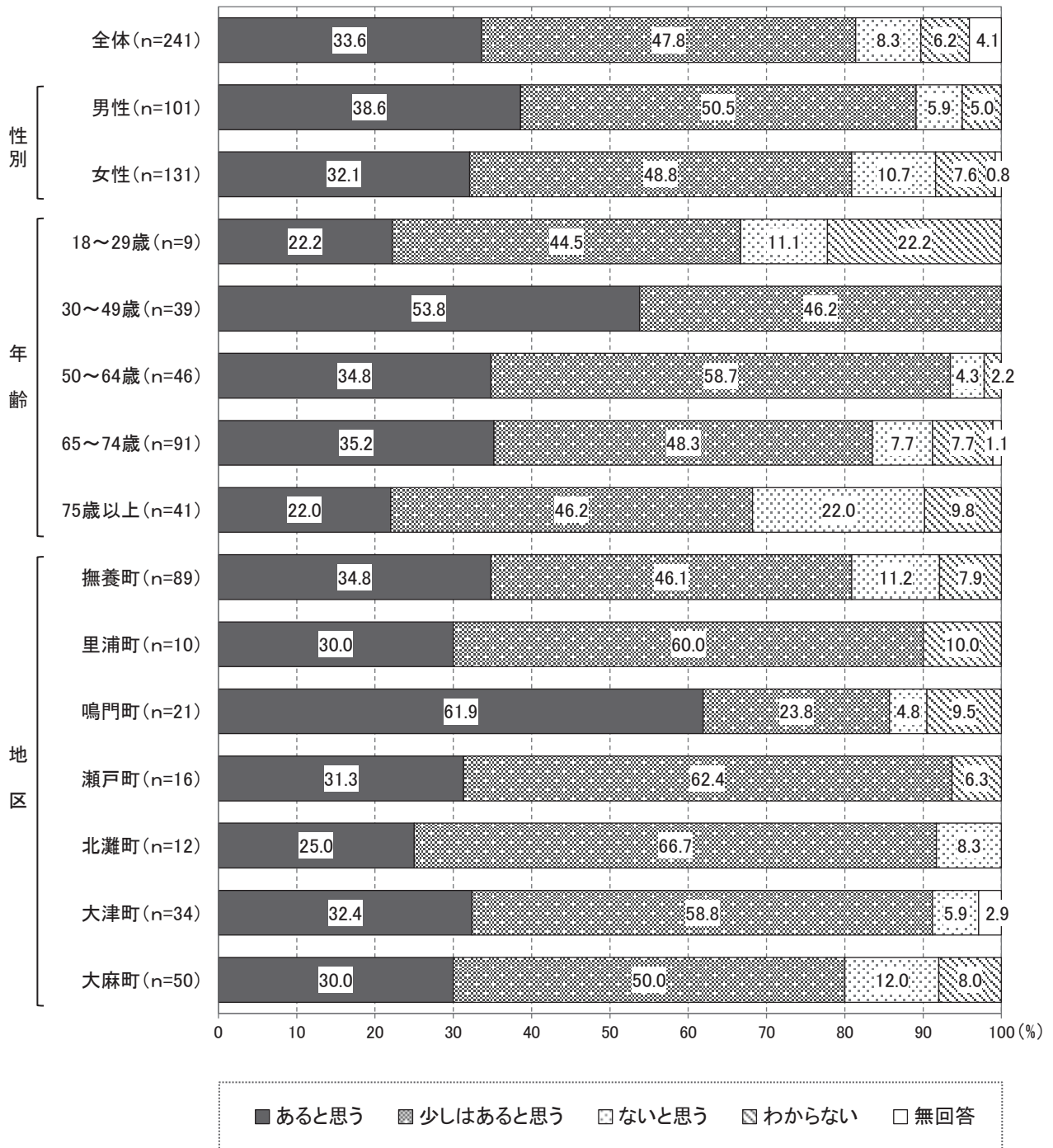
	(n=)	家族など身近な親族にいる(いた)	学校にいる(いた)	自分の職場にいる(いた)	仕事の関係にいる(いた)	隣近所にいる(いた)	趣味などの活動にいる(いた)	その他	身近にいたことはない
全体	241	75 31.1%	40 16.6%	52 21.6%	26 10.8%	46 19.1%	12 5.0%	3 1.2%	61 25.3%
男性	101	37 36.6%	13 12.9%	23 22.8%	15 14.9%	18 17.8%	3 3.0%	3 3.0%	26 25.7%
女性	131	38 29.0%	27 20.6%	29 22.1%	11 8.4%	28 21.4%	9 6.9%	0 0.0%	35 26.7%
18～29歳	9	2 22.2%	5 55.6%	2 22.2%	2 22.2%	1 11.1%	2 22.2%	0 0.0%	1 11.1%
30～49歳	39	13 33.3%	16 41.0%	14 35.9%	5 12.8%	6 15.4%	2 5.1%	1 2.6%	6 15.4%
50～64歳	46	15 32.6%	9 19.6%	15 32.6%	6 13.0%	8 17.4%	2 4.3%	1 2.2%	13 28.3%
65～74歳	91	35 38.5%	8 8.8%	18 19.8%	13 14.3%	19 20.9%	5 5.5%	0 0.0%	21 23.1%
75歳以上	41	8 19.5%	1 2.4%	3 7.3%	0 0.0%	10 24.4%	1 2.4%	0 0.0%	19 46.3%
撫養町	89	23 25.8%	19 21.3%	23 25.8%	9 10.1%	19 21.3%	6 6.7%	1 1.1%	26 29.2%
里浦町	10	3 30.0%	1 10.0%	2 20.0%	1 10.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 20.0%
鳴門町	21	9 42.9%	3 14.3%	6 28.6%	3 14.3%	3 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	6 28.6%
瀬戸町	16	6 37.5%	3 18.8%	6 37.5%	3 18.8%	3 18.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 12.5%
北灘町	12	3 25.0%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	4 33.3%	1 8.3%	0 0.0%	3 25.0%
大津町	34	13 38.2%	5 14.7%	9 26.5%	5 14.7%	9 26.5%	2 5.9%	0 0.0%	7 20.6%
大麻町	50	18 36.0%	8 16.0%	6 12.0%	5 10.0%	6 12.0%	3 6.0%	2 4.0%	15 30.0%

5. 障がいのある人への差別・権利擁護について

問5

世の中には、障がいのある人に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。

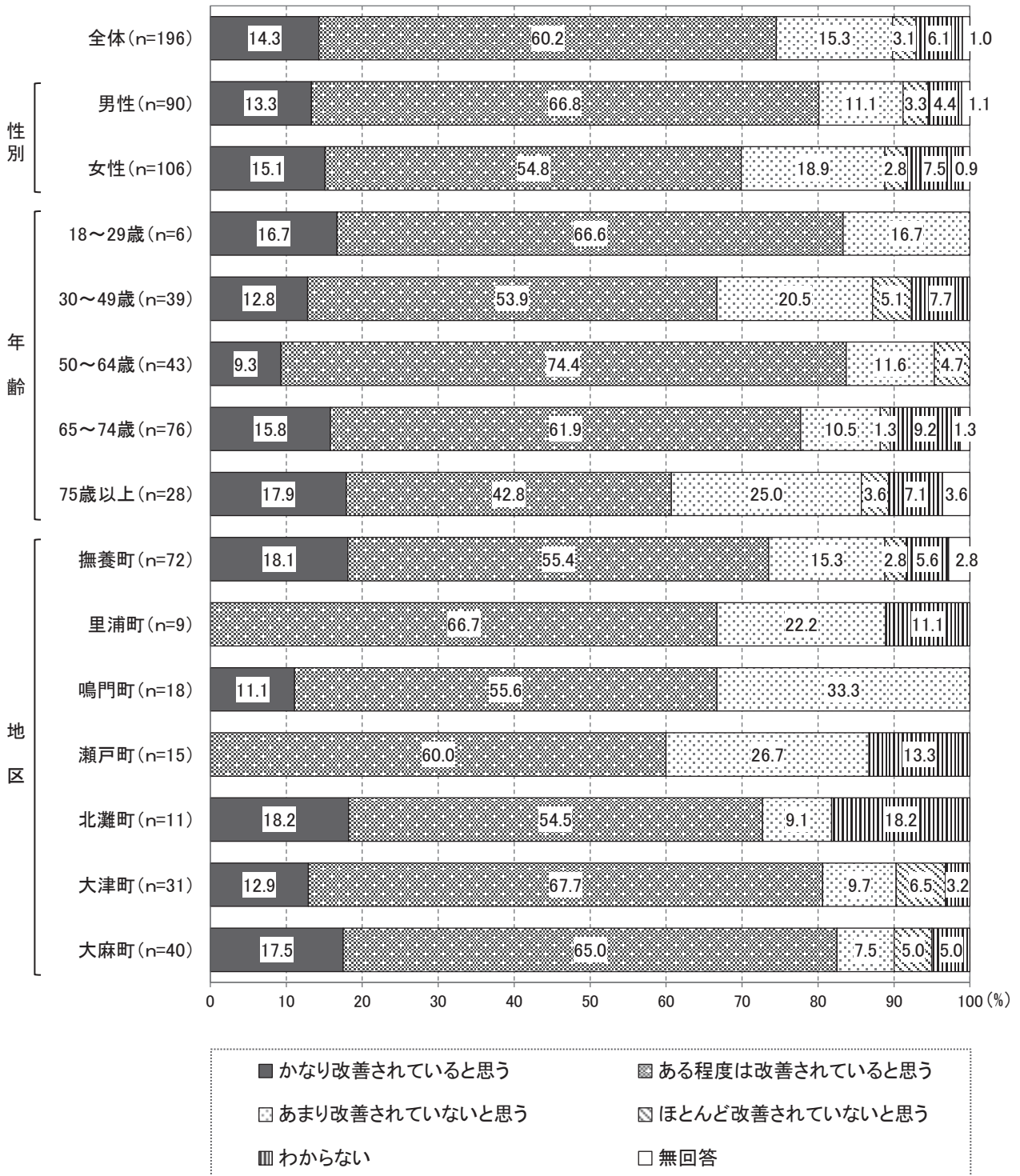
全体では、「少しはあると思う」が47.8%と最も高く、次いで、「あると思う」(33.6%)、「ないと思う」(8.3%)の順となっています。



問6

◆問5で「1.」または「2.」(ある)を選んだ方。
 近年、障がいのある人への差別や偏見は改善されていると思いますか。

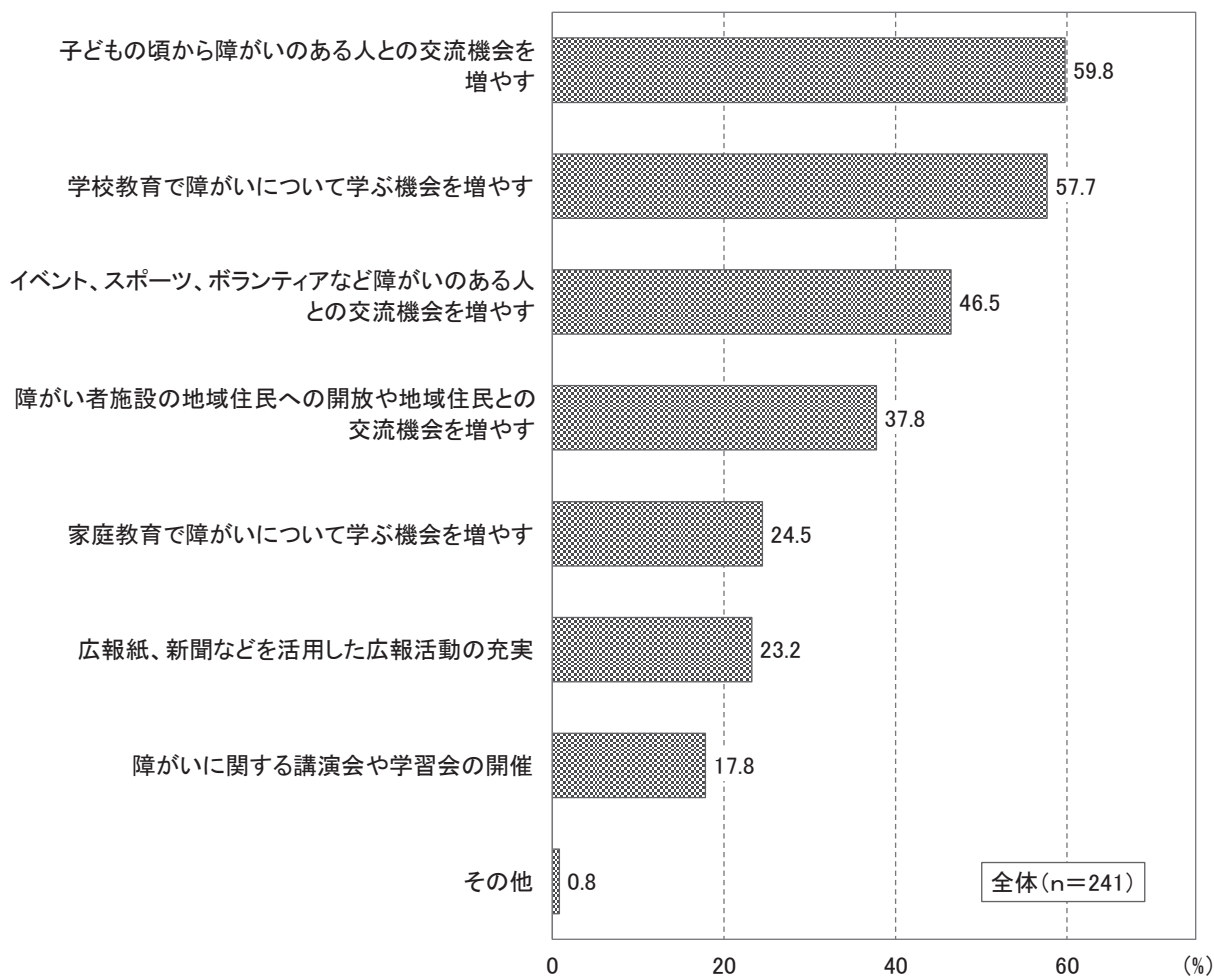
全体では、「ある程度は改善されていると思う」が60.2%と最も高く、次いで、「あまり改善されていないと思う」(15.3%)、「かなり改善されていると思う」(14.3%)の順となっています。



問7

障がいのある人への理解を深めるため、どのようなことが大切だと考えますか。
【複数回答可】

「子どもの頃から障がいのある人との交流機会を増やす」が59.8%と最も高く、次いで、「学校教育で障がいについて学ぶ機会を増やす」(57.7%)、「イベント、スポーツ、ボランティアなど障がいのある人との交流機会を増やす」(46.5%)の順となっています。



主なその他意見

- ・当事者が社会に出ていく考えを持つように教育する。

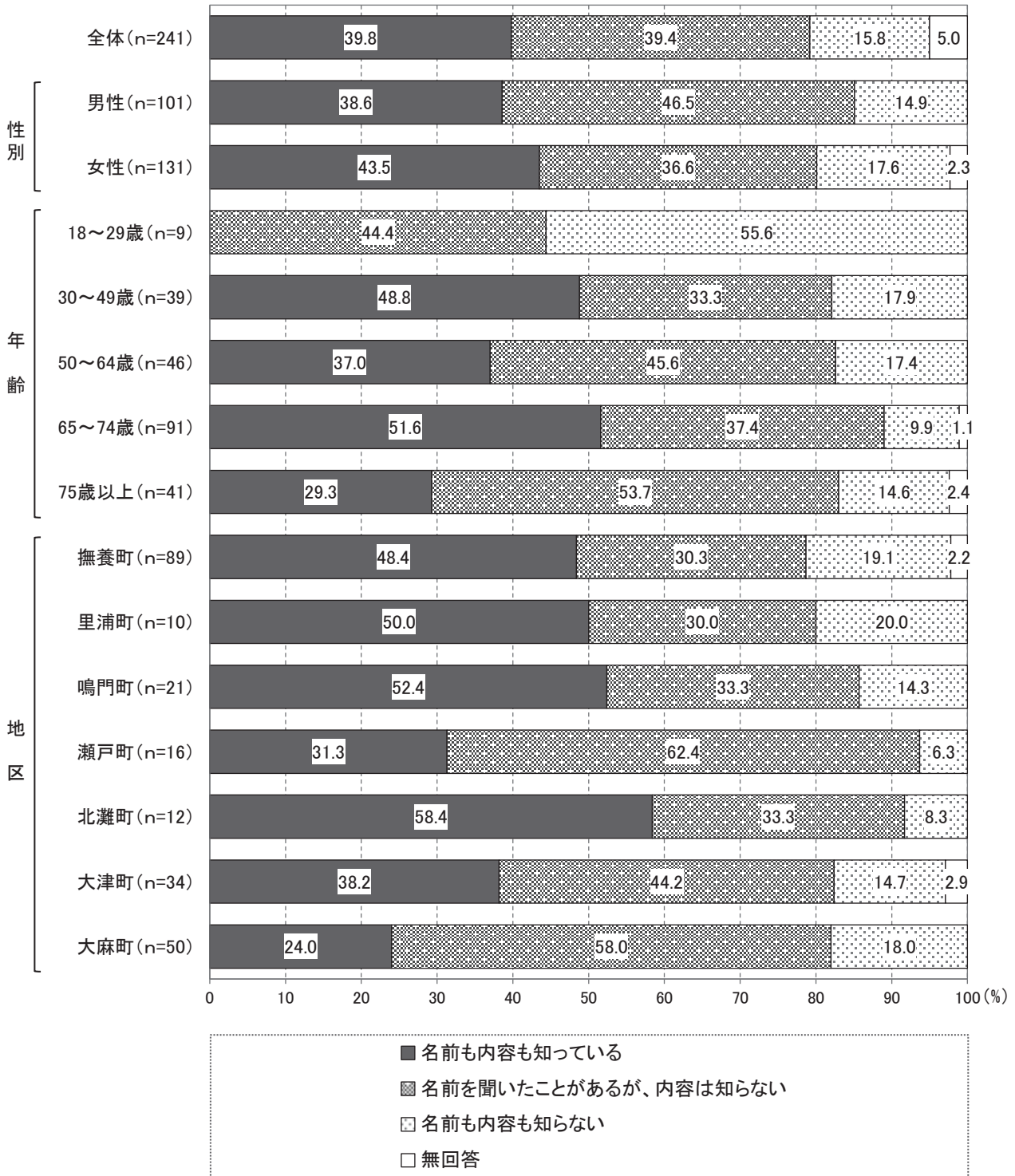
◆ポイント

障がいのある人への差別や偏見について、“ある+少しある”は81.4%と約5人に4人以上がそう思っている結果になりました。また、障がいのある人への理解を深めるのにどんなことが大切かについて、障害のある人との交流や学校での教育等の割合が高くなっています。障がいによる差別や偏見をなくし理解を深めるため、障がいに関する正しい理解の普及啓発と幼少期からの学習の機会提供、障がいのある人との交流等を通じて市民の意識向上を図る必要があります。

	(n=)	子どもの頃から障がいのある人との交流機会を増やす	イベント、スポーツ、ボランティアなど障がいのある人との交流機会を増やす	障がい者施設との地域住民への開放や交流機会を増やす	学校教育で障がいについて学ぶ機会を増やす	家庭教育で障がいについて学ぶ機会を増やす	障がいに関する講演会や学習会の開催	広報紙、新聞などを活用した広報活動の充実	その他
全体	241	144 59.8%	112 46.5%	91 37.8%	139 57.7%	59 24.5%	43 17.8%	56 23.2%	2 0.8%
男性	101	53 52.5%	50 49.5%	39 38.6%	55 54.5%	23 22.8%	20 19.8%	22 21.8%	1 1.0%
女性	131	91 69.5%	62 47.3%	52 39.7%	84 64.1%	36 27.5%	23 17.6%	34 26.0%	1 0.8%
18～29歳	9	6 66.7%	4 44.4%	6 66.7%	5 55.6%	3 33.3%	2 22.2%	2 22.2%	0 0.0%
30～49歳	39	32 82.1%	15 38.5%	13 33.3%	22 56.4%	9 23.1%	6 15.4%	6 15.4%	0 0.0%
50～64歳	46	33 71.7%	28 60.9%	20 43.5%	28 60.9%	9 19.6%	12 26.1%	11 23.9%	0 0.0%
65～74歳	91	48 52.7%	43 47.3%	39 42.9%	55 60.4%	26 28.6%	15 16.5%	28 30.8%	1 1.1%
75歳以上	41	24 58.5%	20 48.8%	12 29.3%	27 65.9%	12 29.3%	7 17.1%	9 22.0%	0 0.0%
撫養町	89	58 65.2%	51 57.3%	40 44.9%	53 59.6%	18 20.2%	20 22.5%	18 20.2%	1 1.1%
里浦町	10	8 80.0%	3 30.0%	3 30.0%	3 30.0%	0 0.0%	1 10.0%	3 30.0%	0 0.0%
鳴門町	21	14 66.7%	10 47.6%	4 19.0%	14 66.7%	6 28.6%	2 9.5%	1 4.8%	0 0.0%
瀬戸町	16	12 75.0%	7 43.8%	8 50.0%	11 68.8%	5 31.3%	3 18.8%	6 37.5%	0 0.0%
北灘町	12	3 25.0%	5 41.7%	2 16.7%	7 58.3%	2 16.7%	1 8.3%	2 16.7%	0 0.0%
大津町	34	16 47.1%	15 44.1%	12 35.3%	20 58.8%	11 32.4%	5 14.7%	13 38.2%	0 0.0%
大麻町	50	33 66.0%	21 42.0%	22 44.0%	31 62.0%	17 34.0%	11 22.0%	13 26.0%	1 2.0%

問 8 成年後見制度についてご存じですか。

全体では、「名前も内容も知っている」が 39.8%と最も高く、次いで、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」(39.4%)、「名前も内容も知らない」(15.8%) の順となっています。



◆ポイント

成年後見制度について、「名前も内容も知っている」は 39.8%と約 10 人に 4 人とどまっています。引き続き成年後見制度の周知に努める必要があります。

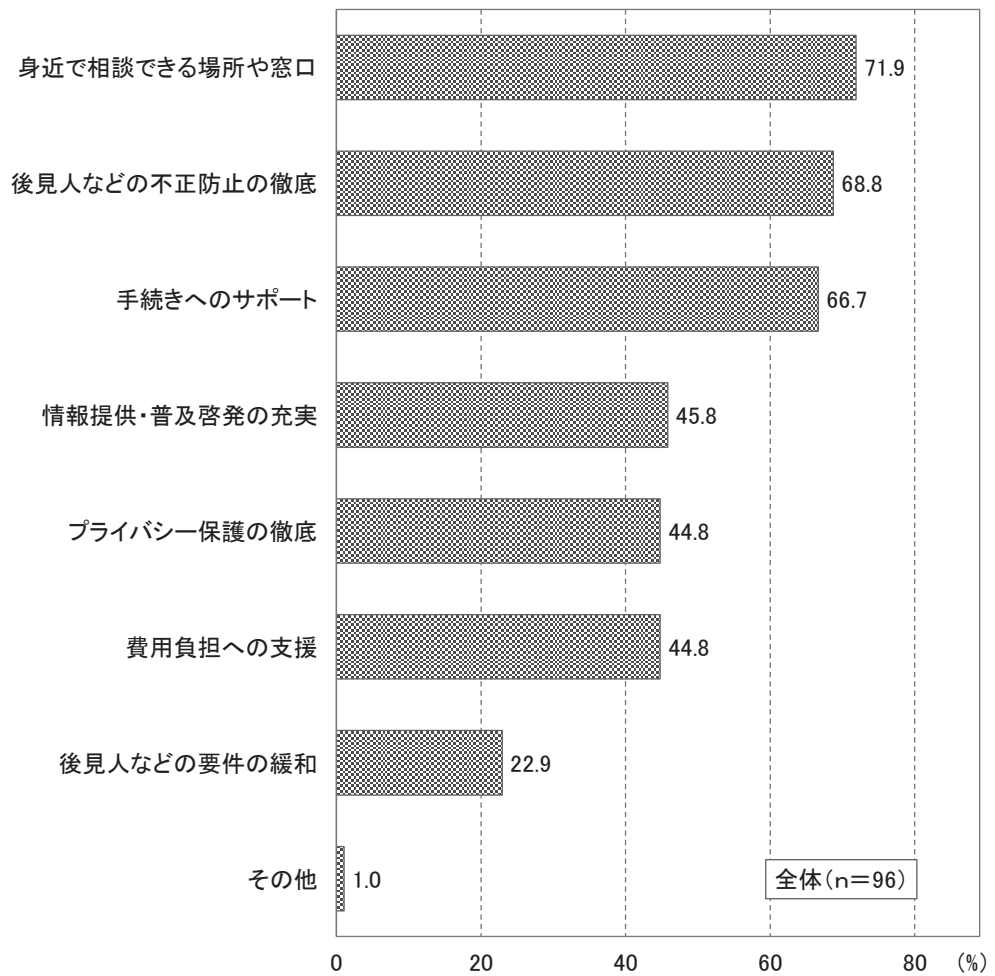
問9

◆問8で「1.」（名前も内容も知っている）を選んだ方。

成年後見制度を利用しやすくするために、何が必要と考えられますか。

【複数回答可】

「身近で相談できる場所や窓口」が71.9%と最も高く、次いで、「後見人などの不正防止の徹底」(68.8%)、「手続きへのサポート」(66.7%)の順となっています。

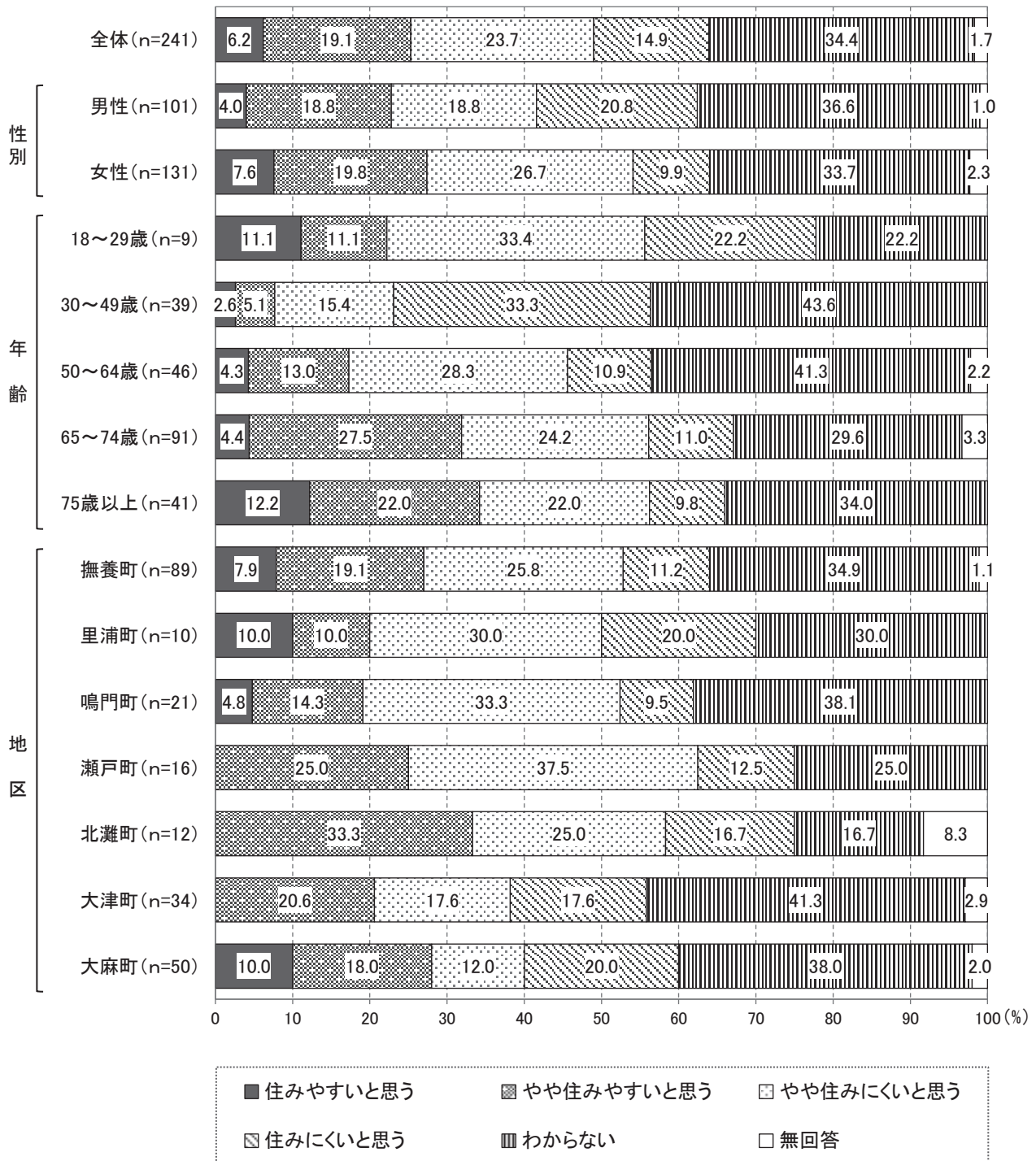


	(n=)	情報提供・普及啓発の充実	身近で相談できる場所や窓口	プライバシー保護の徹底	手続きへのサポート	費用負担への支援	後見人などの要件の緩和	後見人などの不正防止の徹底	その他
全体	96	44 45.8%	69 71.9%	43 44.8%	64 66.7%	43 44.8%	22 22.9%	66 68.8%	1 1.0%
男性	39	20 51.3%	24 61.5%	19 48.7%	28 71.8%	23 59.0%	13 33.3%	25 64.1%	1 2.6%
女性	57	24 42.1%	45 78.9%	24 42.1%	36 63.2%	20 35.1%	9 15.8%	41 71.9%	0 0.0%
18～29歳	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30～49歳	19	9 47.4%	15 78.9%	2 10.5%	13 68.4%	11 57.9%	2 10.5%	13 68.4%	0 0.0%
50～64歳	17	8 47.1%	12 70.6%	9 52.9%	14 82.4%	7 41.2%	5 29.4%	9 52.9%	0 0.0%
65～74歳	47	21 44.7%	34 72.3%	22 46.8%	29 61.7%	19 40.4%	11 23.4%	32 68.1%	1 2.1%
75歳以上	12	5 41.7%	8 66.7%	9 75.0%	7 58.3%	6 50.0%	4 33.3%	11 91.7%	0 0.0%
撫養町	43	20 46.5%	32 74.4%	22 51.2%	31 72.1%	19 44.2%	11 25.6%	27 62.8%	0 0.0%
里浦町	5	2 40.0%	4 80.0%	3 60.0%	1 20.0%	3 60.0%	1 20.0%	3 60.0%	0 0.0%
鳴門町	11	3 27.3%	6 54.5%	2 18.2%	7 63.6%	5 45.5%	2 18.2%	7 63.6%	0 0.0%
瀬戸町	5	4 80.0%	4 80.0%	2 40.0%	4 80.0%	3 60.0%	1 20.0%	5 100.0%	0 0.0%
北灘町	7	2 28.6%	6 85.7%	2 28.6%	4 57.1%	1 14.3%	1 14.3%	4 57.1%	0 0.0%
大津町	13	6 46.2%	8 61.5%	6 46.2%	7 53.8%	7 53.8%	4 30.8%	10 76.9%	1 7.7%
大麻町	12	7 58.3%	9 75.0%	6 50.0%	10 83.3%	5 41.7%	2 16.7%	10 83.3%	0 0.0%

6. 障がいのある人の地域生活について

問10 障がいのある人にとって鳴門市は住みやすい地域と思いますか。

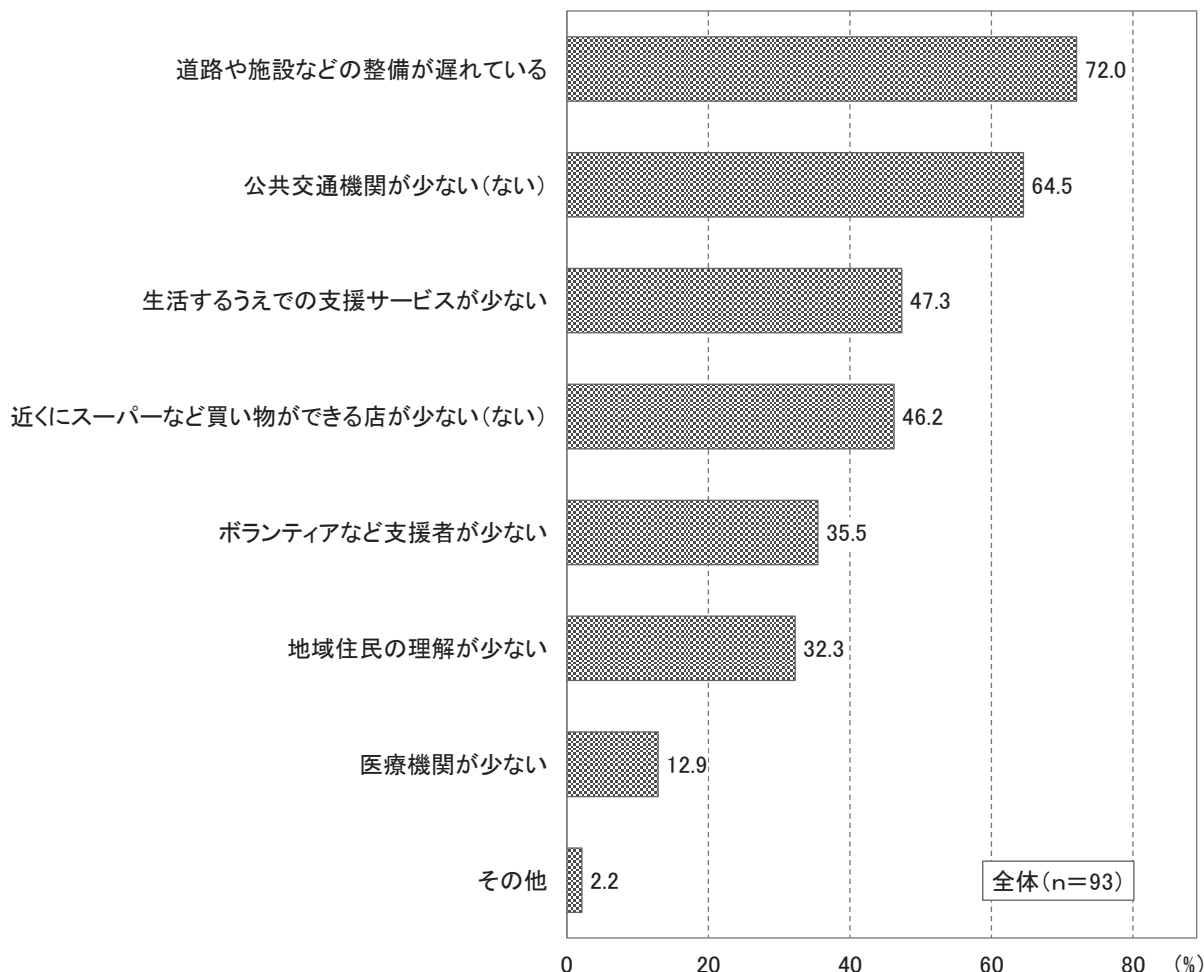
全体では、「わからない」が34.4%と最も高く、次いで、「やや住みにくいと思う」(23.7%)、「やや住みやすいと思う」(19.1%)の順となっています。



問 11

◆問 10 で「3.」または「4.」（住みにくい）を選んだ方。
 住みにくいと思う理由は何ですか。【複数回答可】

「道路や施設などの整備が遅れている」が 72.0%と最も高く、次いで、「公共交通機関が少ない(ない)」(64.5%)、「生活するうえでの支援サービスが少ない」(47.3%)の順となっています。



主なその他意見

- ・ 支援学校がない。
- ・ 障がいのある人が安心してスポーツをできる場所が少ない。

◆ポイント

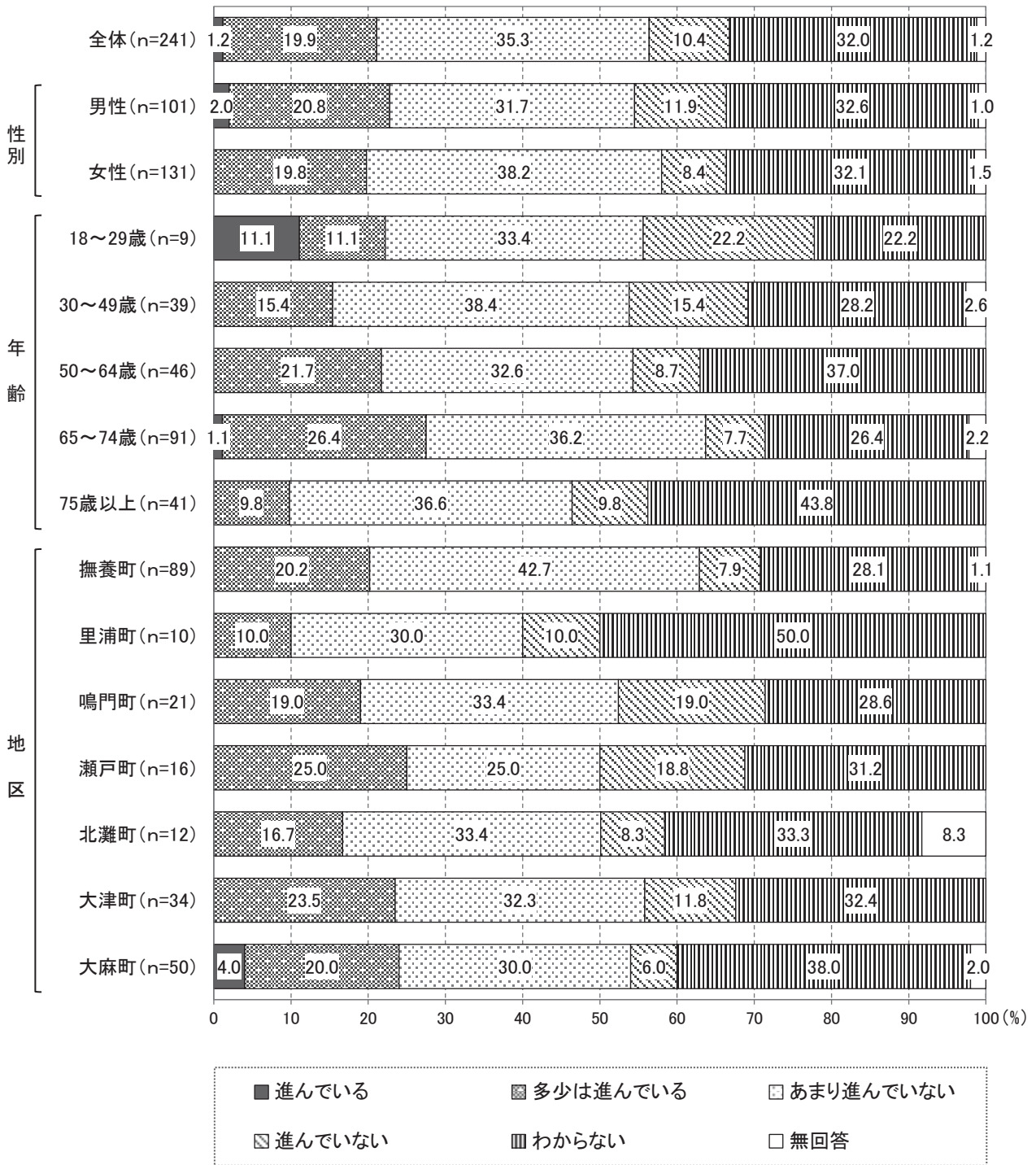
本市が障がいのある人にとって住みやすい地域かについて、“住みやすい+やや住みやすい”は 25.3%、“やや住みにくい+住みにくい”は 38.6%となっています。また、住みにくい理由として、道路や施設の整備、公共交通網の不足等の割合が高いことから、ソフト・ハード両面にわたって障がいのある人もない人も住みやすいまちづくりを進める必要があります。

	(n=)	地域住民の理解が少ない	道路や施設などの整備が遅れている	生活するうえでの支援サービスが少ない	ボランティアなど支援者が少ない	公共交通機関が少ない(ない)	医療機関が少ない	近くにスーパーなど買い物ができない(ない)	その他
全体	93	30 32.3%	67 72.0%	44 47.3%	33 35.5%	60 64.5%	12 12.9%	43 46.2%	2 2.2%
男性	40	12 30.0%	27 67.5%	19 47.5%	13 32.5%	26 65.0%	5 12.5%	18 45.0%	1 2.5%
女性	48	16 33.3%	36 75.0%	23 47.9%	18 37.5%	32 66.7%	6 12.5%	23 47.9%	1 2.1%
18～29歳	5	3 60.0%	4 80.0%	2 40.0%	2 40.0%	3 60.0%	1 20.0%	4 80.0%	0 0.0%
30～49歳	19	5 26.3%	16 84.2%	7 36.8%	7 36.8%	15 78.9%	1 5.3%	8 42.1%	1 5.3%
50～64歳	18	3 16.7%	11 61.1%	8 44.4%	8 44.4%	17 94.4%	1 5.6%	11 61.1%	0 0.0%
65～74歳	32	10 31.3%	23 71.9%	16 50.0%	10 31.3%	17 53.1%	6 18.8%	16 50.0%	0 0.0%
75歳以上	13	7 53.8%	8 61.5%	9 69.2%	4 30.8%	6 46.2%	2 15.4%	2 15.4%	0 0.0%
撫養町	33	10 30.3%	24 72.7%	13 39.4%	10 30.3%	23 69.7%	4 12.1%	15 45.5%	2 6.1%
里浦町	5	2 40.0%	4 80.0%	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%
鳴門町	9	0 0.0%	6 66.7%	3 33.3%	3 33.3%	5 55.6%	0 0.0%	5 55.6%	0 0.0%
瀬戸町	8	2 25.0%	5 62.5%	5 62.5%	5 62.5%	6 75.0%	1 12.5%	3 37.5%	0 0.0%
北灘町	5	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%	5 100.0%	2 40.0%	4 80.0%	0 0.0%
大津町	12	5 41.7%	9 75.0%	6 50.0%	4 33.3%	9 75.0%	1 8.3%	2 16.7%	0 0.0%
大麻町	16	9 56.3%	13 81.3%	12 75.0%	9 56.3%	9 56.3%	3 18.8%	11 68.8%	0 0.0%

問 12

国は施設や病院にいる障がいのある人が地域での生活に移行すること（地域移行）を推進していますが、地域の理解はどの程度進んでいると思いますか。

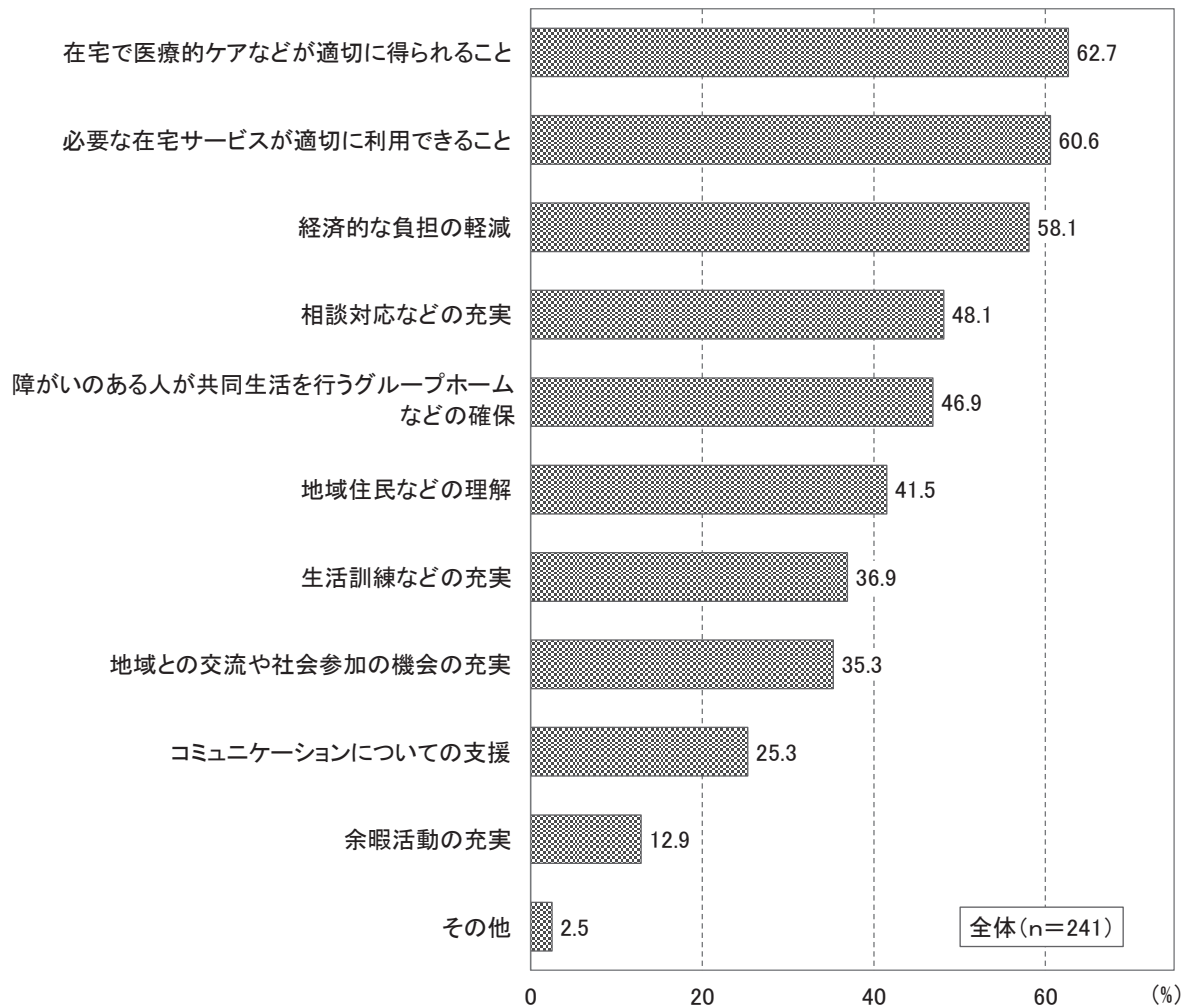
全体では、「あまり進んでいない」が35.3%と最も高く、次いで、「わからない」（32.0%）、「多少は進んでいる」（19.9%）の順となっています。



問 13

障がいのある人が地域で生活するために、どのような支援があればよいと思いますか。【複数回答可】

「在宅で医療的ケアなどが適切に得られること」が62.7%と最も高く、次いで、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(60.6%)、「経済的な負担の軽減」(58.1%)の順となっています。



主なその他意見

- ・ バリアフリー、道路・歩道の整備。
- ・ 交通サービスの多様性。
- ・ 就業機会。

◆ポイント

地域で生活するために必要な支援について、在宅医療やサービスの充実、経済的な負担軽減、相談対応、グループホームの確保が上位に挙げられています。引き続き、障害のある人のニーズに対応できる在宅サービスの充実や相談対応、住まいの確保等に努める必要があります。

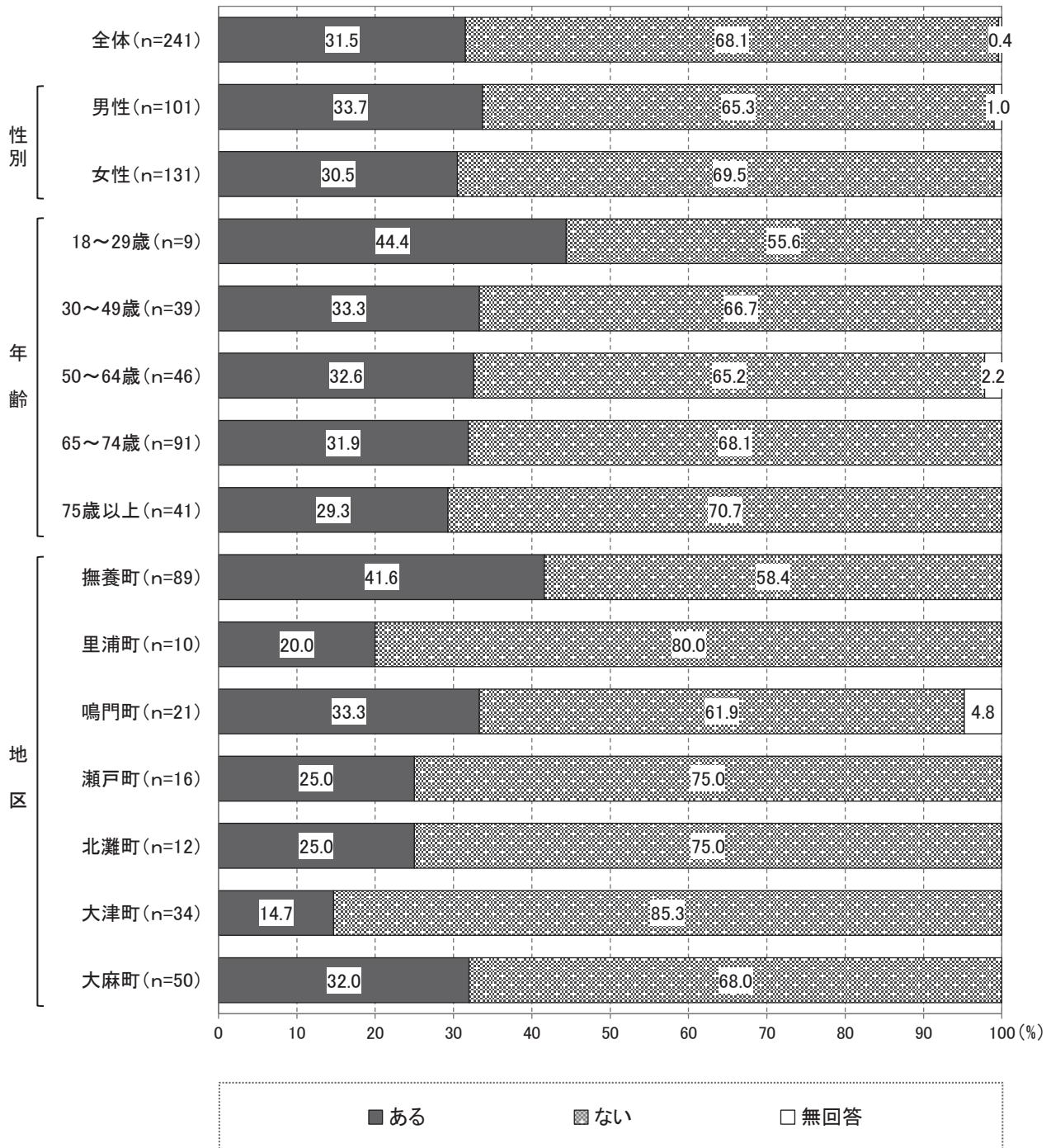
	(n=)	在宅で医療的ケアなど得られること	障がいのある人がグループホームなどの生活を行う	必要な在宅サービスが適切に利用できること	生活訓練などの充実	経済的な負担の軽減	相談対応などの充実	地域住民などの理解	地域との交流や社会参加の機会の充実	余暇活動の充実	コミュニケーションについての支援	その他
全体	241	151 62.7%	113 46.9%	146 60.6%	89 36.9%	140 58.1%	116 48.1%	100 41.5%	85 35.3%	31 12.9%	61 25.3%	6 2.5%
男性	101	54 53.5%	46 45.5%	51 50.5%	33 32.7%	59 58.4%	44 43.6%	43 42.6%	35 34.7%	15 14.9%	26 25.7%	6 5.9%
女性	131	92 70.2%	60 45.8%	90 68.7%	54 41.2%	77 58.8%	68 51.9%	52 39.7%	48 36.6%	15 11.5%	32 24.4%	0 0.0%
18～29歳	9	6 66.7%	3 33.3%	6 66.7%	4 44.4%	6 66.7%	6 66.7%	6 66.7%	5 55.6%	1 11.1%	3 33.3%	0 0.0%
30～49歳	39	25 64.1%	20 51.3%	27 69.2%	19 48.7%	25 64.1%	21 53.8%	20 51.3%	16 41.0%	10 25.6%	11 28.2%	4 10.3%
50～64歳	46	29 63.0%	23 50.0%	28 60.9%	22 47.8%	26 56.5%	20 43.5%	20 43.5%	16 34.8%	6 13.0%	16 34.8%	1 2.2%
65～74歳	91	58 63.7%	36 39.6%	56 61.5%	28 30.8%	52 57.1%	45 49.5%	29 31.9%	34 37.4%	6 6.6%	18 19.8%	0 0.0%
75歳以上	41	25 61.0%	20 48.8%	23 56.1%	14 34.1%	26 63.4%	19 46.3%	18 43.9%	12 29.3%	7 17.1%	10 24.4%	0 0.0%
撫養町	89	56 62.9%	48 53.9%	50 56.2%	33 37.1%	53 59.6%	39 43.8%	39 43.8%	30 33.7%	12 13.5%	26 29.2%	2 2.2%
里浦町	10	6 60.0%	2 20.0%	5 50.0%	2 20.0%	5 50.0%	6 60.0%	4 40.0%	2 20.0%	1 10.0%	1 10.0%	0 0.0%
鳴門町	21	14 66.7%	7 33.3%	14 66.7%	10 47.6%	6 28.6%	9 42.9%	6 28.6%	8 38.1%	1 4.8%	2 9.5%	0 0.0%
瀬戸町	16	11 68.8%	8 50.0%	11 68.8%	7 43.8%	10 62.5%	9 56.3%	6 37.5%	7 43.8%	3 18.8%	4 25.0%	1 6.3%
北灘町	12	7 58.3%	4 33.3%	8 66.7%	2 16.7%	7 58.3%	5 41.7%	2 16.7%	5 41.7%	2 16.7%	3 25.0%	0 0.0%
大津町	34	22 64.7%	15 44.1%	22 64.7%	12 35.3%	23 67.6%	15 44.1%	15 44.1%	9 26.5%	5 14.7%	10 29.4%	1 2.9%
大麻町	50	30 60.0%	22 44.0%	31 62.0%	21 42.0%	32 64.0%	29 58.0%	23 46.0%	22 44.0%	6 12.0%	12 24.0%	2 4.0%

7. 障がいのある人への手助けについて

問 14

あなたは、これまで障がいのある人の手助け（身内や業務として関わる場合を除く）をしたことがありますか。

全体では、「ある」が31.5%、「ない」が68.1%となっています。

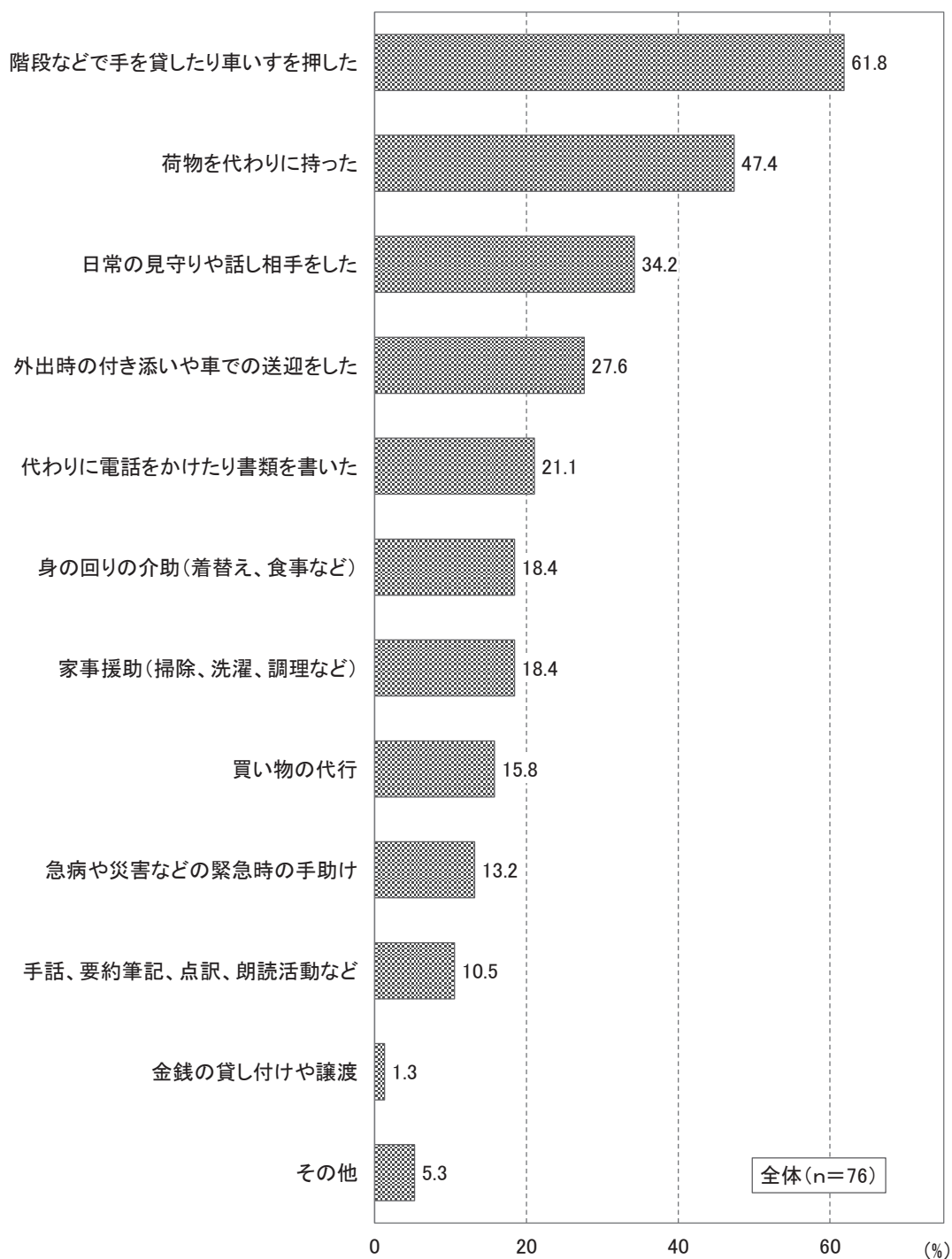


問 15

◆問 14 で「1.」（ある）を選んだ方。

あなたが実際に行った手助けは何ですか。【複数回答可】

「階段などで手を貸したり車いすを押した」が 61.8%と最も高く、次いで、「荷物を代わりに持った」(47.4%)、「日常の見守りや話し相手をした」(34.2%) の順となっています。



主なその他意見

・ ボランティア、イベント。

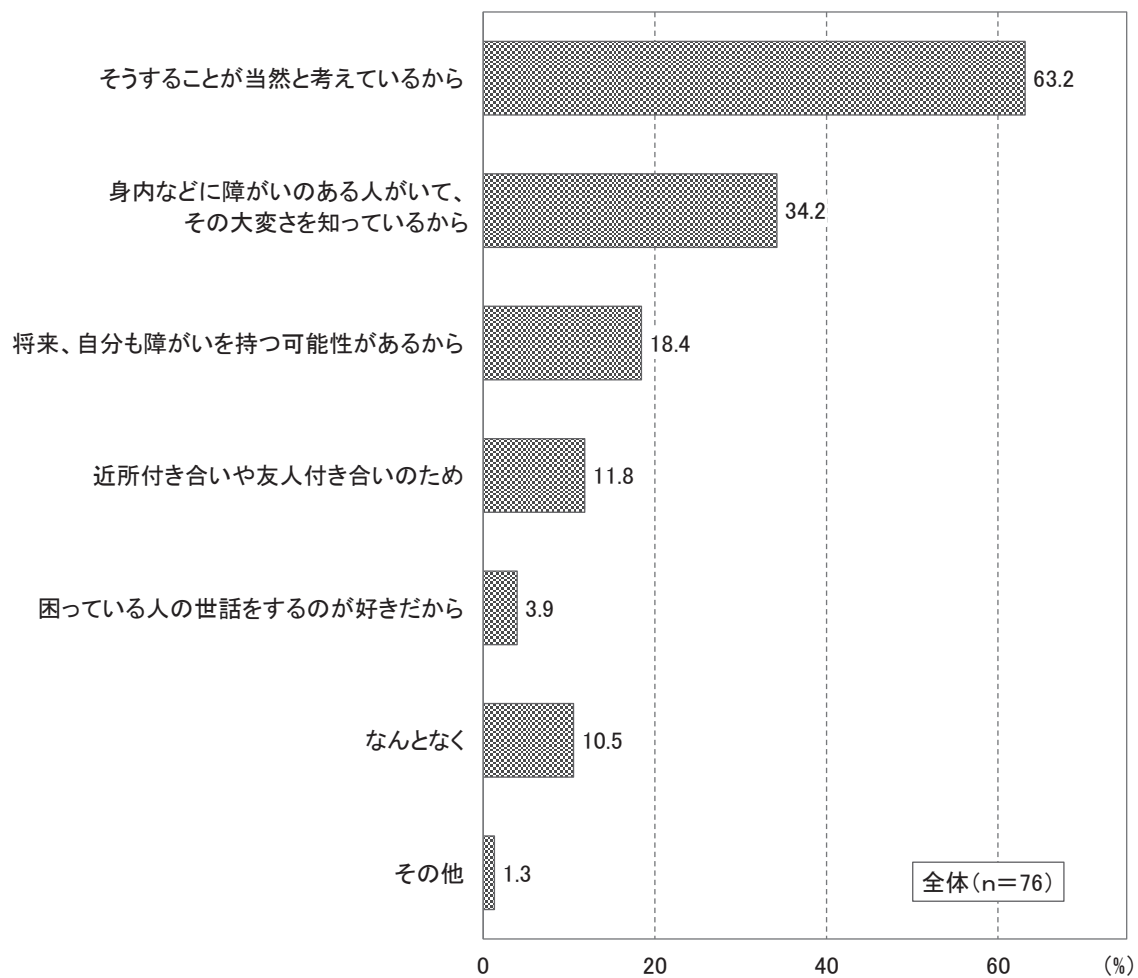
・ 年金の申請手続き。

	(n=)	階段などで手を貸したり車いすを押しすた	荷物を代わりに持った	身の回りの介助（着替え、食事など）	外出時の付き添いや車での送迎をした	家事援助（掃除、洗濯、調理など）	日常の見守りや話し相手をした	急病や災害などの緊急時の手助け	代わりに電話をかけたリ書類を書いた	買い物の代行	金銭の貸し付けや譲渡	手話、要約筆記、点訳、朗読活動など	その他
全体	76	47 61.8%	36 47.4%	14 18.4%	21 27.6%	14 18.4%	26 34.2%	10 13.2%	16 21.1%	12 15.8%	1 1.3%	8 10.5%	4 5.3%
男性	34	24 70.6%	19 55.9%	7 20.6%	11 32.4%	7 20.6%	9 26.5%	3 8.8%	5 14.7%	3 8.8%	1 2.9%	2 5.9%	2 5.9%
女性	40	22 55.0%	17 42.5%	6 15.0%	9 22.5%	6 15.0%	16 40.0%	7 17.5%	11 27.5%	8 20.0%	0 0.0%	6 15.0%	2 5.0%
18～29歳	4	3 75.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%
30～49歳	13	10 76.9%	7 53.8%	0 0.0%	2 15.4%	1 7.7%	2 15.4%	1 7.7%	1 7.7%	1 7.7%	0 0.0%	1 7.7%	1 7.7%
50～64歳	15	11 73.3%	10 66.7%	7 46.7%	7 46.7%	4 26.7%	7 46.7%	1 6.7%	3 20.0%	3 20.0%	0 0.0%	3 20.0%	0 0.0%
65～74歳	29	18 62.1%	13 44.8%	4 13.8%	8 27.6%	6 20.7%	10 34.5%	6 20.7%	10 34.5%	5 17.2%	1 3.4%	3 10.3%	1 3.4%
75歳以上	12	4 33.3%	4 33.3%	2 16.7%	2 16.7%	1 8.3%	4 33.3%	2 16.7%	2 16.7%	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%
撫養町	37	24 64.9%	20 54.1%	5 13.5%	10 27.0%	7 18.9%	12 32.4%	4 10.8%	8 21.6%	6 16.2%	1 2.7%	4 10.8%	1 2.7%
里浦町	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%
鳴門町	7	5 71.4%	4 57.1%	0 0.0%	2 28.6%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	1 14.3%
瀬戸町	4	2 50.0%	2 50.0%	3 75.0%	4 100.0%	2 50.0%	3 75.0%	2 50.0%	3 75.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
北灘町	3	2 66.7%	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
大津町	5	2 40.0%	1 20.0%	3 60.0%	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%
大麻町	16	11 68.8%	7 43.8%	2 12.5%	1 6.3%	2 12.5%	6 37.5%	1 6.3%	3 18.8%	1 6.3%	0 0.0%	2 12.5%	0 0.0%

問 16

◆問 14 で「1.」（ある）を選んだ方。
それはどのような思いからですか。【複数回答可】

「そうすることが当然と考えているから」が 63.2%と最も高く、次いで、「身内などに障がいのある人がいて、その大変さを知っているから」(34.2%)、「将来、自分も障がいを持つ可能性があるから」(18.4%)の順となっています。

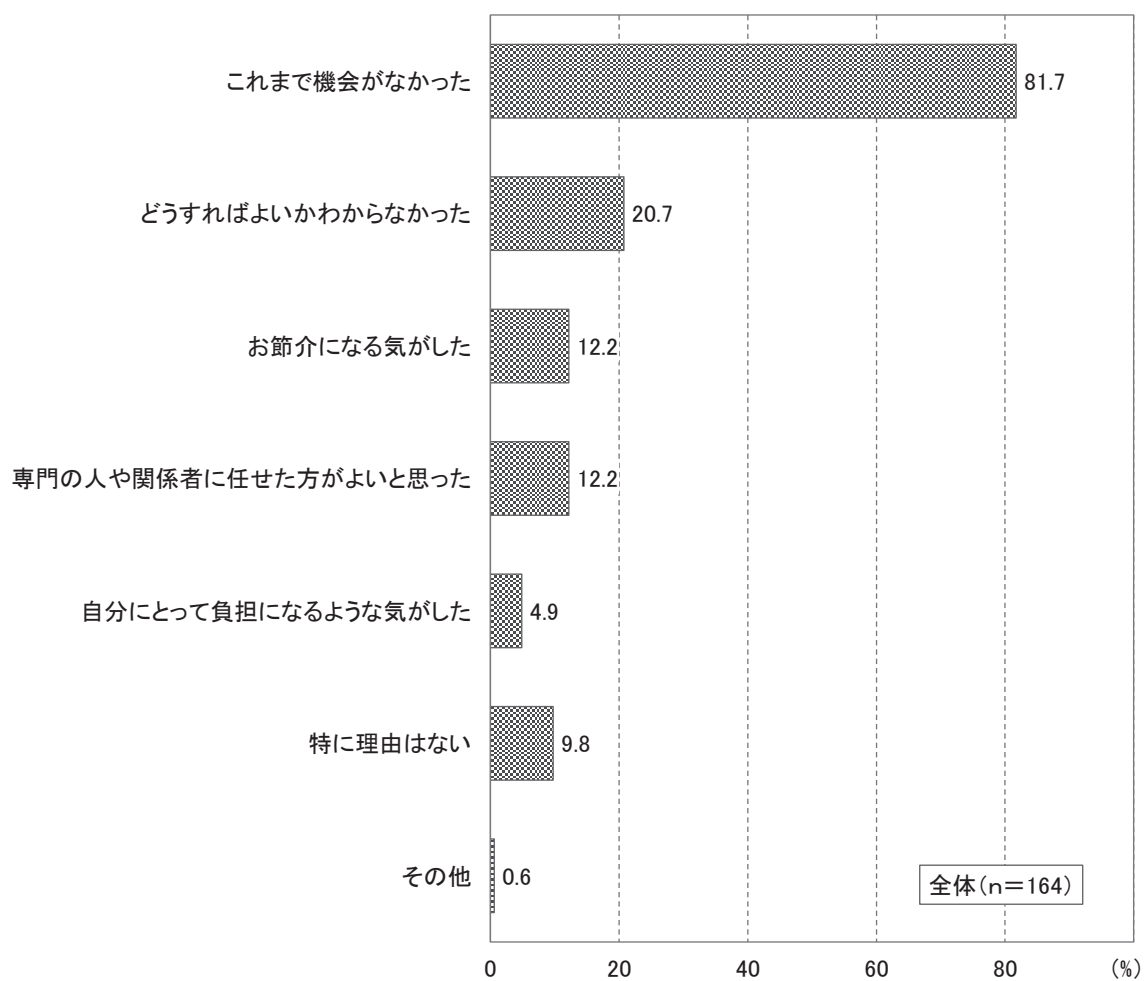


	(n=)	身内などに障がいのある人がいるから、その大変さを知っているから、	近所付き合いや友人付き合いのため	そうすることが当然と考えているから	困っている人の世話をするのが好きだから	将来、自分も障がいを持つ可能性があるから	なんとなく	その他
全体	76	26 34.2%	9 11.8%	48 63.2%	3 3.9%	14 18.4%	8 10.5%	1 1.3%
男性	34	14 41.2%	4 11.8%	23 67.6%	2 5.9%	8 23.5%	2 5.9%	0 0.0%
女性	40	11 27.5%	5 12.5%	25 62.5%	1 2.5%	6 15.0%	5 12.5%	1 2.5%
18～29歳	4	2 50.0%	1 25.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%
30～49歳	13	2 15.4%	0 0.0%	10 76.9%	0 0.0%	0 0.0%	3 23.1%	1 7.7%
50～64歳	15	7 46.7%	0 0.0%	10 66.7%	0 0.0%	2 13.3%	1 6.7%	0 0.0%
65～74歳	29	11 37.9%	3 10.3%	20 69.0%	1 3.4%	9 31.0%	2 6.9%	0 0.0%
75歳以上	12	3 25.0%	4 33.3%	6 50.0%	2 16.7%	3 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
撫養町	37	10 27.0%	7 18.9%	27 73.0%	2 5.4%	10 27.0%	3 8.1%	0 0.0%
里浦町	2	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
鳴門町	7	1 14.3%	0 0.0%	5 71.4%	0 0.0%	0 0.0%	3 42.9%	0 0.0%
瀬戸町	4	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
北灘町	3	1 33.3%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%
大津町	5	4 80.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%
大麻町	16	4 25.0%	0 0.0%	12 75.0%	1 6.3%	1 6.3%	1 6.3%	0 0.0%

問 17

◆問 14 で「2.」（ない）を選んだ方。
それはどうしてですか。【複数回答可】

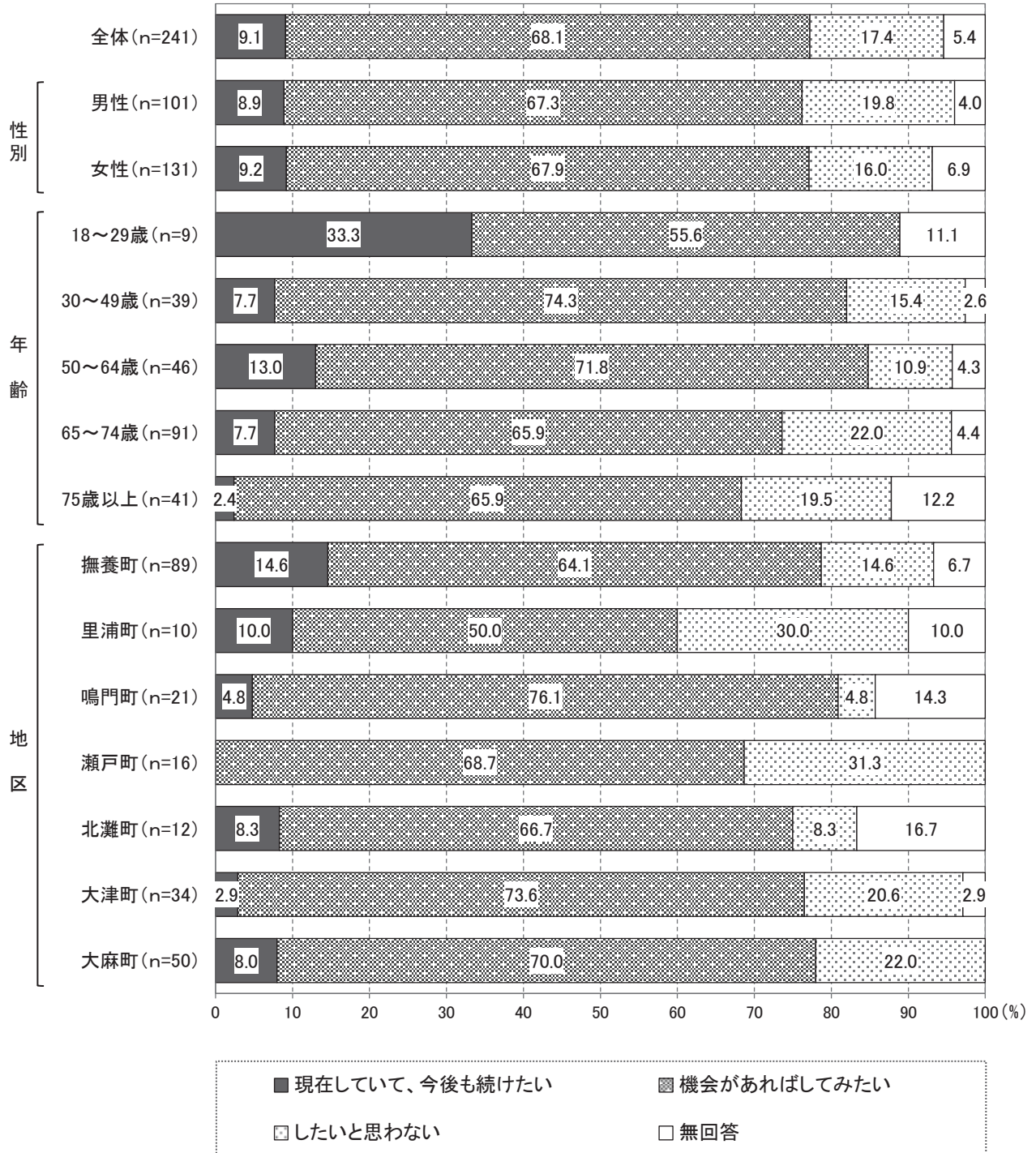
「これまで機会がなかった」が 81.7%と最も高く、次いで、「どうすればよいかわからなかった」(20.7%)、「お節介になる気がした」・「専門の人や関係者に任せた方がよいと思った」(12.2%で同率)の順となっています。



	(n=)	これまで機会がなかった	自分にとって負担になるような気がした	どうすればよいかわからなかった	お節介になる気がした	専門の人や関係者に任せようと思った方がよい	特に理由はない	その他
全体	164	134 81.7%	8 4.9%	34 20.7%	20 12.2%	20 12.2%	16 9.8%	1 0.6%
男性	66	51 77.3%	4 6.1%	14 21.2%	9 13.6%	7 10.6%	7 10.6%	1 1.5%
女性	91	76 83.5%	4 4.4%	20 22.0%	11 12.1%	13 14.3%	8 8.8%	0 0.0%
18～29歳	5	4 80.0%	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30～49歳	26	18 69.2%	2 7.7%	4 15.4%	1 3.8%	3 11.5%	1 3.8%	0 0.0%
50～64歳	30	26 86.7%	2 6.7%	9 30.0%	2 6.7%	4 13.3%	3 10.0%	0 0.0%
65～74歳	62	51 82.3%	3 4.8%	16 25.8%	13 21.0%	7 11.3%	5 8.1%	0 0.0%
75歳以上	29	25 86.2%	0 0.0%	2 6.9%	3 10.3%	5 17.2%	6 20.7%	0 0.0%
撫養町	52	41 78.8%	3 5.8%	14 26.9%	9 17.3%	12 23.1%	2 3.8%	0 0.0%
里浦町	8	6 75.0%	1 12.5%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
鳴門町	13	12 92.3%	1 7.7%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
瀬戸町	12	8 66.7%	0 0.0%	3 25.0%	2 16.7%	1 8.3%	4 33.3%	0 0.0%
北灘町	9	8 88.9%	1 11.1%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%
大津町	29	26 89.7%	1 3.4%	7 24.1%	4 13.8%	3 10.3%	4 13.8%	0 0.0%
大麻町	34	26 76.5%	1 2.9%	5 14.7%	5 14.7%	4 11.8%	3 8.8%	1 2.9%

問 18 今後、障がいのある人の手助けをしたいと思いますか。

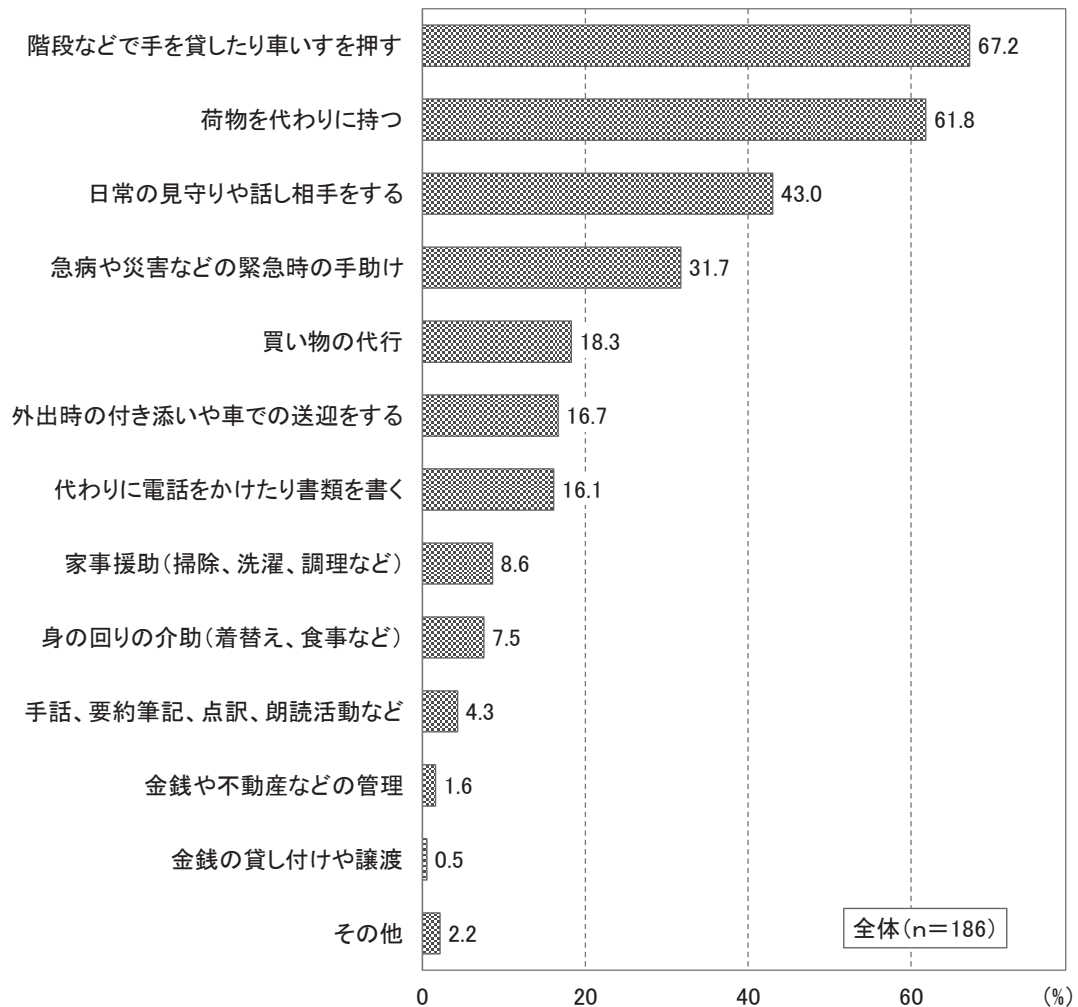
全体では、「機会があればしてみたい」が 68.1%と最も高く、次いで、「したいと思わない」(17.4%)、「現在していて、今後も続けたい」(9.1%) の順となっています。



問 19

◆問 18 で「1.」または「2.」を選んだ方。
 どのような手助けを今後したいですか。【複数回答可】

「階段などで手を貸したり車いすを押す」が 67.2%と最も高く、次いで、「荷物を代わりに持つ」(61.8%)、「日常の見守りや話し相手をする」(43.0%) の順となっています。



主なその他意見

- ・ 自立支援。
- ・ そのとき必要なことでよいと思う。
- ・ 暮らしのサポートセンターで手芸を一緒に楽しみたい。
- ・ 人生の中でそのようなタイミングが来ると思う。

◆ポイント

障がいのある人への手助けについて、実際に行ったことのある人は 31.5%と約 10 人に 3 人となっており、移動支援や荷物の補助が上位に挙げられています。また、今後手助けしたいと思うかについて、“現在している+機会があればしたい”の割合は 77.2%と約 10 人に 8 人となっています。障がいのある人への市民の理解を深めて困っている人を手助けできる機運を醸成するとともに、施設等のバリアフリー化等により障がいのある人が移動しやすい環境づくりに取り組む必要があります。

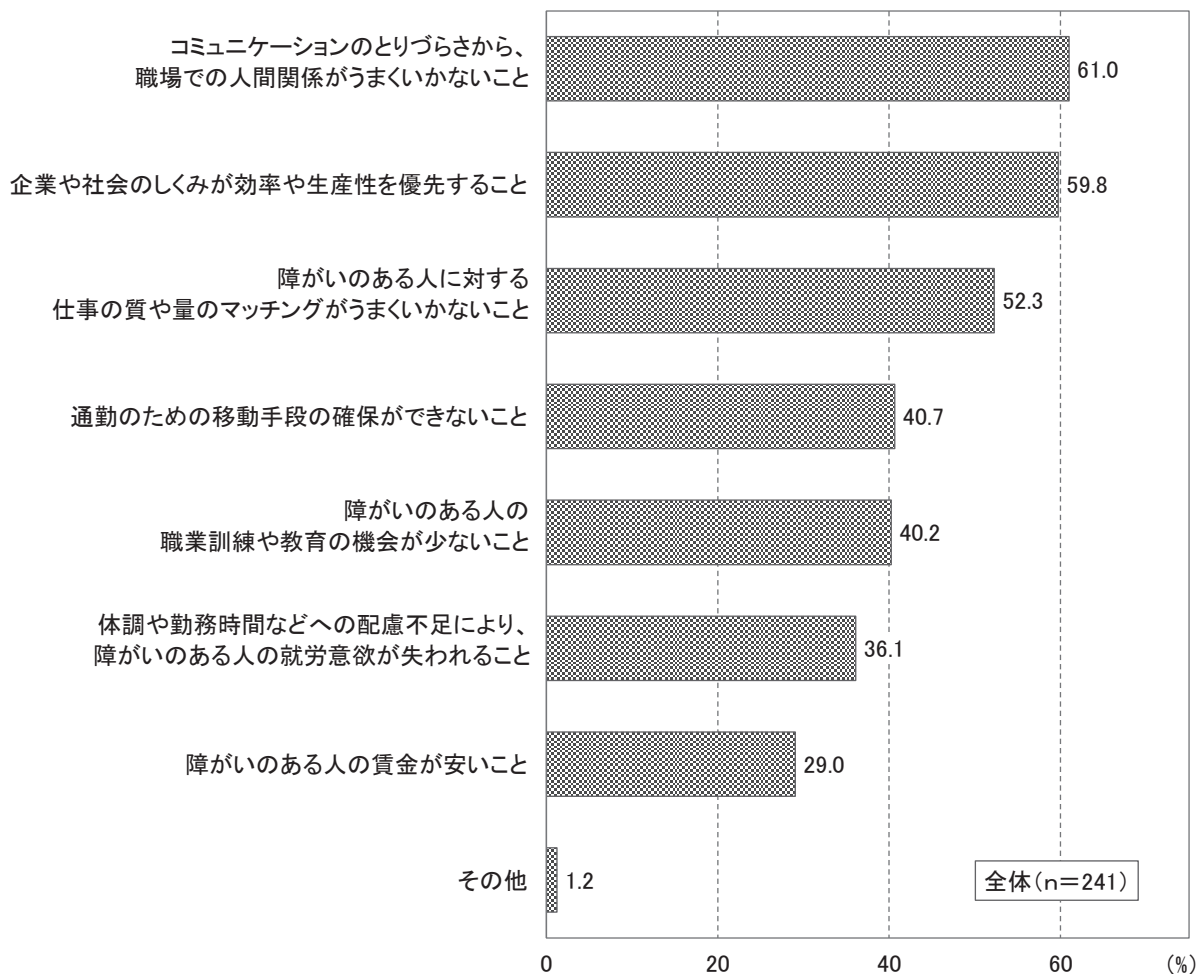
	(n=)	階段などで手を貸したり車いすを押す	荷物を代わりに持つ	身の回りの介助（着替え、食事など）	外出時の付き添いや車での送迎をする	家事援助（掃除、洗濯、調理など）	日常の見守りや話し相手をする	急病や災害などの緊急時の手助け	代わりに電話をかけたたり書類を書く	買い物の代行	金銭や不動産などの管理	金銭の貸し付けや譲渡	手話、要約筆記、点訳、朗読活動など	その他
全体	186	125 67.2%	115 61.8%	14 7.5%	31 16.7%	16 8.6%	80 43.0%	59 31.7%	30 16.1%	34 18.3%	3 1.6%	1 0.5%	8 4.3%	4 2.2%
男性	77	47 61.0%	51 66.2%	6 7.8%	11 14.3%	6 7.8%	34 44.2%	28 36.4%	7 9.1%	9 11.7%	3 3.9%	0 0.0%	2 2.6%	2 2.6%
女性	101	72 71.3%	63 62.4%	8 7.9%	20 19.8%	10 9.9%	44 43.6%	29 28.7%	23 22.8%	24 23.8%	0 0.0%	1 1.0%	4 4.0%	2 2.0%
18～29歳	8	6 75.0%	7 87.5%	1 12.5%	2 25.0%	3 37.5%	5 62.5%	1 12.5%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30～49歳	32	24 75.0%	23 71.9%	4 12.5%	6 18.8%	1 3.1%	7 21.9%	12 37.5%	4 12.5%	4 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 6.3%
50～64歳	39	31 79.5%	29 74.4%	6 15.4%	8 20.5%	8 20.5%	25 64.1%	15 38.5%	9 23.1%	8 20.5%	1 2.6%	0 0.0%	3 7.7%	1 2.6%
65～74歳	67	44 65.7%	38 56.7%	2 3.0%	11 16.4%	2 3.0%	31 46.3%	26 38.8%	13 19.4%	13 19.4%	2 3.0%	0 0.0%	3 4.5%	1 1.5%
75歳以上	28	12 42.9%	14 50.0%	1 3.6%	3 10.7%	2 7.1%	9 32.1%	3 10.7%	4 14.3%	6 21.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
撫養町	70	43 61.4%	48 68.6%	2 2.9%	11 15.7%	6 8.6%	32 45.7%	23 32.9%	11 15.7%	16 22.9%	2 2.9%	1 1.4%	3 4.3%	2 2.9%
里浦町	6	4 66.7%	4 66.7%	2 33.3%	1 16.7%	2 33.3%	3 50.0%	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%
鳴門町	17	12 70.6%	11 64.7%	1 5.9%	4 23.5%	1 5.9%	5 29.4%	5 29.4%	2 11.8%	3 17.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
瀬戸町	11	10 90.9%	9 81.8%	3 27.3%	3 27.3%	1 9.1%	6 54.5%	5 45.5%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
北灘町	9	6 66.7%	5 55.6%	1 11.1%	2 22.2%	0 0.0%	5 55.6%	3 33.3%	2 22.2%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
大津町	26	16 61.5%	15 57.7%	2 7.7%	4 15.4%	2 7.7%	12 46.2%	9 34.6%	5 19.2%	5 19.2%	1 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 7.7%
大麻町	39	28 71.8%	22 56.4%	3 7.7%	6 15.4%	4 10.3%	15 38.5%	11 28.2%	7 17.9%	5 12.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.1%	0 0.0%

8. 障がいのある人の就労について

問 20

障がいのある人は仕事につきにくかったり、就労しても離職する率が高いと言われていますが、どのようなことが原因になっていると思いますか。【複数回答可】

「コミュニケーションのとりづらさから、職場での人間関係がうまくいかないこと」が61.0%と最も高く、次いで、「企業や社会のしくみが効率や生産性を優先すること」(59.8%)、「障がいのある人に対する仕事の質や量のマッチングがうまくいかないこと」(52.3%)の順となっています。



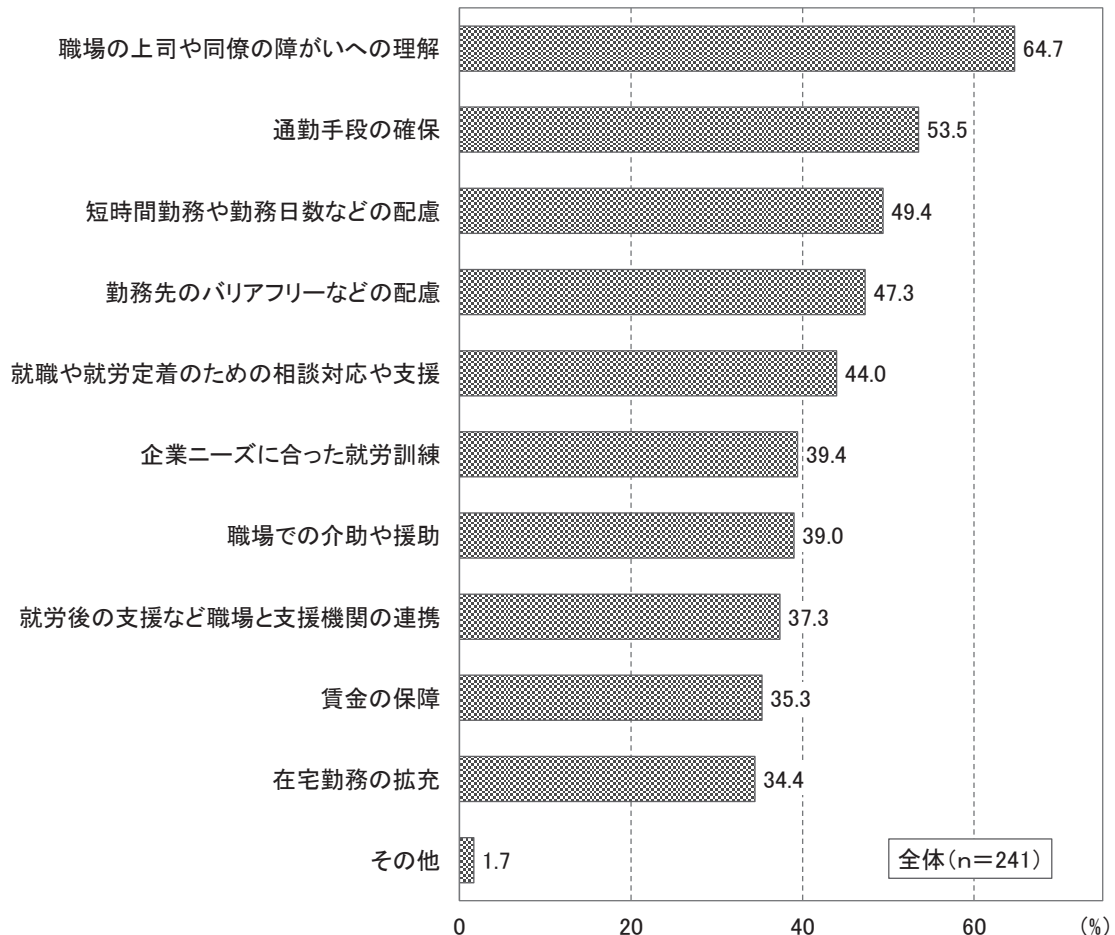
主なその他意見

- ・ 露骨に見下したり、差別をすること。
- ・ 周りの人への配慮、理解が不十分なこと。

	(n=)	企業や生産性を優先する効率と	障がいのある人の職業訓練と	より調や障がいのある人の就労意欲に	通勤のための移動手段の確保が	から、職場での人間関係がうまく	障がいのマッティングがうまく仕事の質や	障がいのある人の賃金が安いこと	その他
全体	241	144 59.8%	97 40.2%	87 36.1%	98 40.7%	147 61.0%	126 52.3%	70 29.0%	3 1.2%
男性	101	63 62.4%	41 40.6%	41 40.6%	39 38.6%	55 54.5%	52 51.5%	25 24.8%	2 2.0%
女性	131	76 58.0%	55 42.0%	42 32.1%	56 42.7%	87 66.4%	70 53.4%	44 33.6%	0 0.0%
18～29歳	9	2 22.2%	3 33.3%	4 44.4%	4 44.4%	8 88.9%	5 55.6%	5 55.6%	0 0.0%
30～49歳	39	23 59.0%	20 51.3%	12 30.8%	19 48.7%	29 74.4%	20 51.3%	15 38.5%	0 0.0%
50～64歳	46	27 58.7%	17 37.0%	21 45.7%	20 43.5%	28 60.9%	24 52.2%	15 32.6%	0 0.0%
65～74歳	91	63 69.2%	37 40.7%	29 31.9%	34 37.4%	51 56.0%	51 56.0%	23 25.3%	0 0.0%
75歳以上	41	23 56.1%	15 36.6%	16 39.0%	17 41.5%	24 58.5%	21 51.2%	8 19.5%	1 2.4%
撫養町	89	53 59.6%	36 40.4%	31 34.8%	28 31.5%	51 57.3%	50 56.2%	25 28.1%	1 1.1%
里浦町	10	4 40.0%	1 10.0%	2 20.0%	2 20.0%	8 80.0%	5 50.0%	3 30.0%	0 0.0%
鳴門町	21	14 66.7%	7 33.3%	7 33.3%	10 47.6%	13 61.9%	9 42.9%	7 33.3%	0 0.0%
瀬戸町	16	10 62.5%	9 56.3%	9 56.3%	14 87.5%	11 68.8%	9 56.3%	8 50.0%	0 0.0%
北灘町	12	6 50.0%	3 25.0%	3 25.0%	4 33.3%	5 41.7%	6 50.0%	2 16.7%	0 0.0%
大津町	34	23 67.6%	18 52.9%	12 35.3%	17 50.0%	22 64.7%	20 58.8%	9 26.5%	0 0.0%
大麻町	50	29 58.0%	22 44.0%	19 38.0%	20 40.0%	32 64.0%	23 46.0%	15 30.0%	1 2.0%

問 21 障がいのある人にどのような就労支援が必要だと思いますか。【複数回答可】

「職場の上司や同僚の障がいへの理解」が64.7%と最も高く、次いで、「通勤手段の確保」(53.5%)、「短時間勤務や勤務日数などの配慮」(49.4%)の順となっています。


主なその他意見

- ・ 障がい者の状態に合った仕事の創出。
- ・ ジョブコーチと障がい者の関係性を深め、企業との連携強化が就労支援には重要ではないか。
- ・ 一般企業に無理に障がいの人を組み込もうとすることに違和感がある。ある程度の「守られた場」を提供してあげられたら互いのためになると思う。

◆ポイント

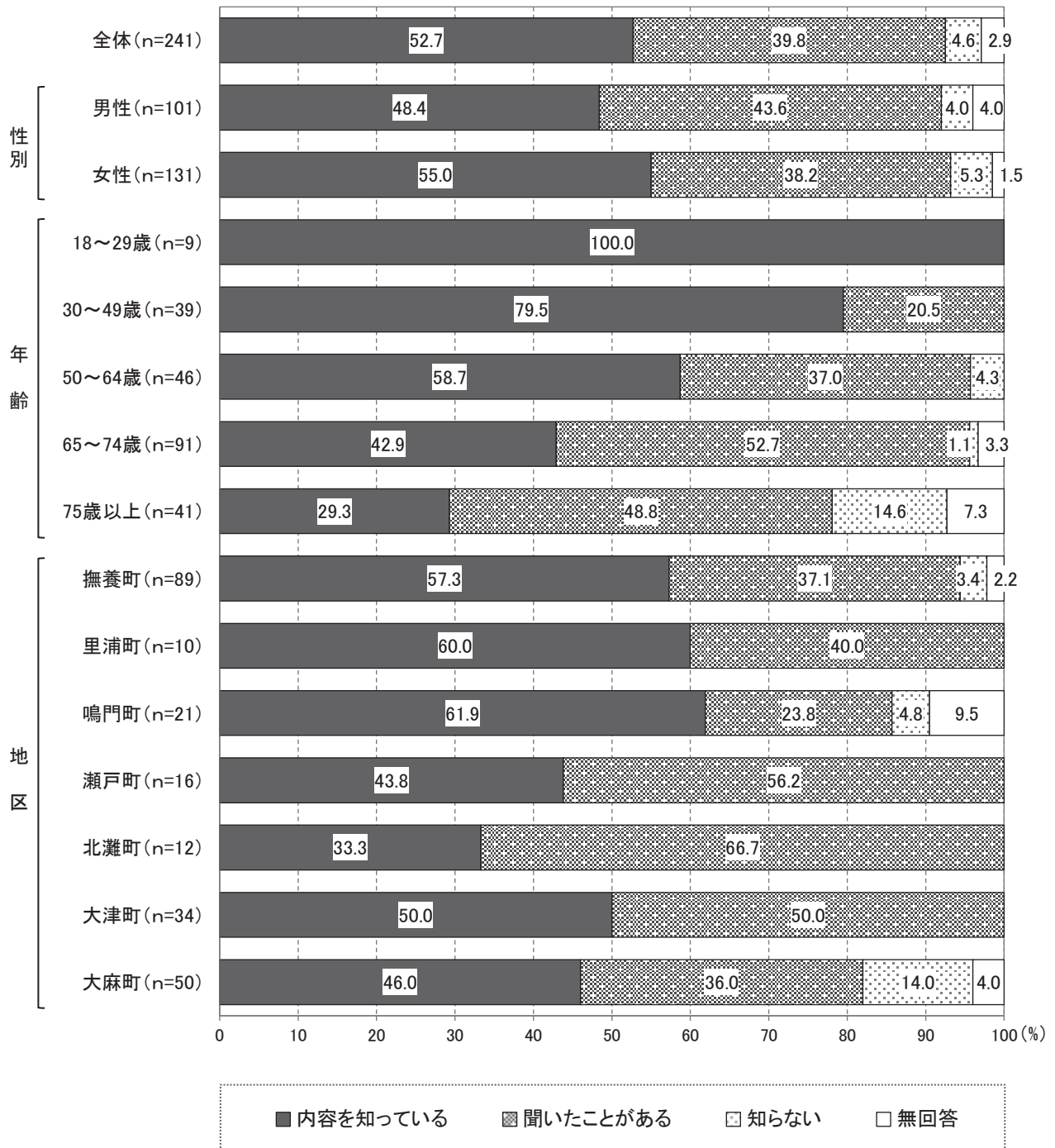
必要だと思う就労支援について、職場の人たちの理解が最も高く、通勤手段の確保や勤務時間・日数への配慮が上位に挙げられています。まず、職場内において様々な障がいに関する理解を深めて、障がいのある人への仕事内容と柔軟な勤務形態を確保したうえで、障がいのある人にもない人にも互いに配慮された就労環境へと改善していくことが望まれます。

	(n=)	通勤手段の確保	勤務先のバリアフリーなどの配慮	短時間勤務や勤務日数などの配慮	在宅勤務の拡充	職場の上司や同僚の障がいへの理解	職場での介助や援助	就労後の支援など職場と支援機関連携の	企業ニーズに合った就労訓練	就職や就労定着のための相談対応や支援	賃金の保障	その他
全体	241	129 53.5%	114 47.3%	119 49.4%	83 34.4%	156 64.7%	94 39.0%	90 37.3%	95 39.4%	106 44.0%	85 35.3%	4 1.7%
男性	101	50 49.5%	48 47.5%	55 54.5%	33 32.7%	64 63.4%	40 39.6%	39 38.6%	45 44.6%	43 42.6%	30 29.7%	2 2.0%
女性	131	76 58.0%	63 48.1%	61 46.6%	47 35.9%	86 65.6%	53 40.5%	48 36.6%	47 35.9%	60 45.8%	54 41.2%	2 1.5%
18～29歳	9	6 66.7%	3 33.3%	5 55.6%	5 55.6%	7 77.8%	5 55.6%	5 55.6%	4 44.4%	6 66.7%	4 44.4%	0 0.0%
30～49歳	39	23 59.0%	23 59.0%	22 56.4%	12 30.8%	26 66.7%	15 38.5%	20 51.3%	19 48.7%	18 46.2%	17 43.6%	1 2.6%
50～64歳	46	26 56.5%	20 43.5%	25 54.3%	15 32.6%	32 69.6%	24 52.2%	24 52.2%	20 43.5%	25 54.3%	18 39.1%	1 2.2%
65～74歳	91	46 50.5%	47 51.6%	41 45.1%	31 34.1%	58 63.7%	32 35.2%	27 29.7%	36 39.6%	38 41.8%	31 34.1%	1 1.1%
75歳以上	41	22 53.7%	18 43.9%	20 48.8%	15 36.6%	25 61.0%	16 39.0%	10 24.4%	13 31.7%	14 34.1%	12 29.3%	0 0.0%
撫養町	89	39 43.8%	42 47.2%	45 50.6%	29 32.6%	59 66.3%	39 43.8%	38 42.7%	34 38.2%	41 46.1%	28 31.5%	2 2.2%
里浦町	10	5 50.0%	4 40.0%	4 40.0%	1 10.0%	5 50.0%	3 30.0%	4 40.0%	2 20.0%	4 40.0%	2 20.0%	0 0.0%
鳴門町	21	14 66.7%	11 52.4%	10 47.6%	5 23.8%	14 66.7%	6 28.6%	5 23.8%	6 28.6%	7 33.3%	9 42.9%	1 4.8%
瀬戸町	16	15 93.8%	11 68.8%	10 62.5%	5 31.3%	10 62.5%	7 43.8%	10 62.5%	8 50.0%	11 68.8%	9 56.3%	0 0.0%
北灘町	12	6 50.0%	8 66.7%	3 25.0%	3 25.0%	6 50.0%	3 25.0%	1 8.3%	5 41.7%	5 41.7%	6 50.0%	0 0.0%
大津町	34	19 55.9%	17 50.0%	17 50.0%	17 50.0%	26 76.5%	11 32.4%	17 50.0%	16 47.1%	15 44.1%	11 32.4%	0 0.0%
大麻町	50	28 56.0%	18 36.0%	27 54.0%	20 40.0%	30 60.0%	24 48.0%	12 24.0%	21 42.0%	20 40.0%	19 38.0%	1 2.0%

9. 障がいのある児童・生徒の教育について

問 22 「発達障がい」をご存知ですか。

全体では、「内容を知っている」が52.7%と最も高く、次いで、「聞いたことがある」(39.8%)、「知らない」(4.6%)の順となっています。

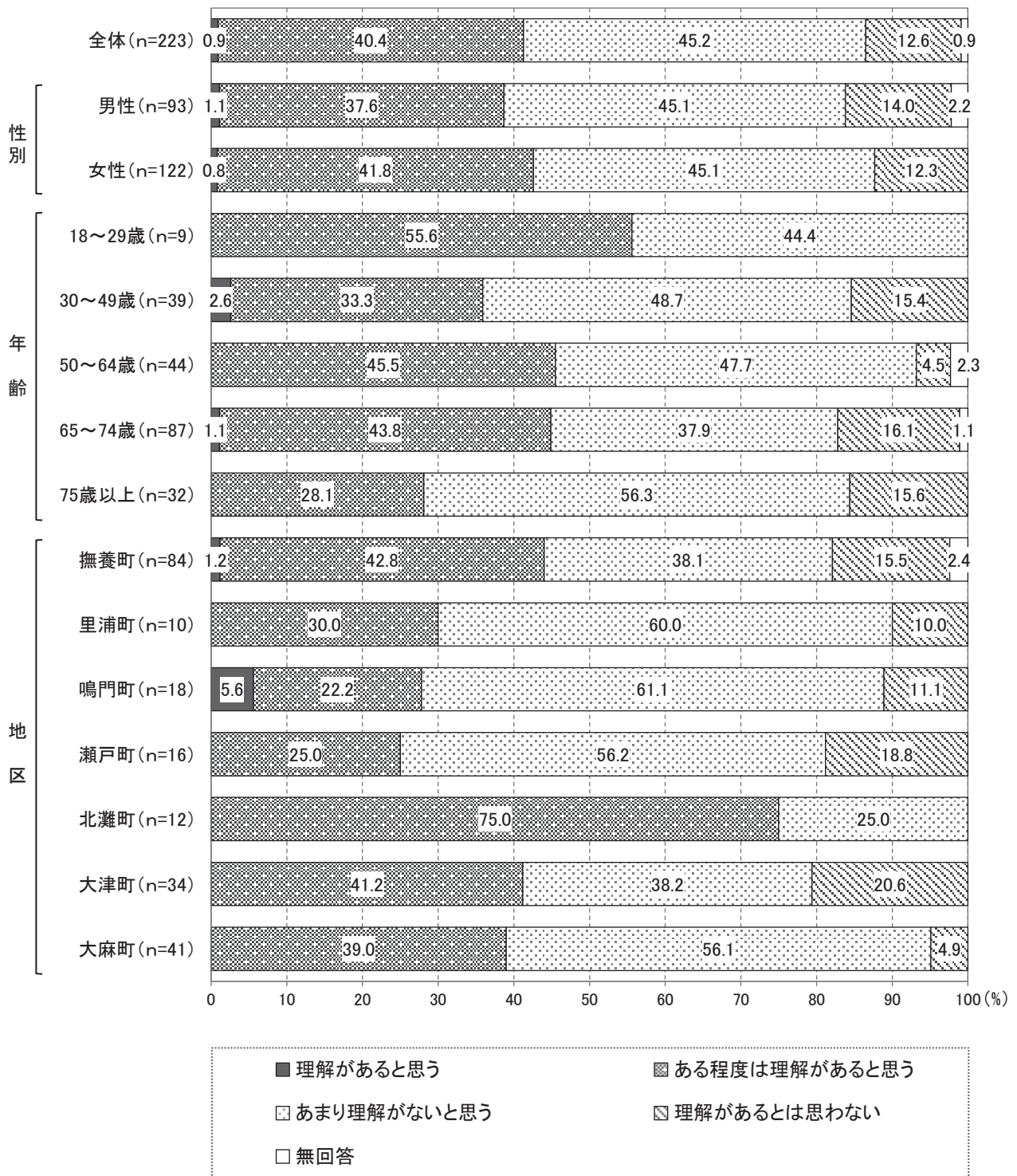


問 23

◆問 22 で「1.」または「2.」を選んだ方。

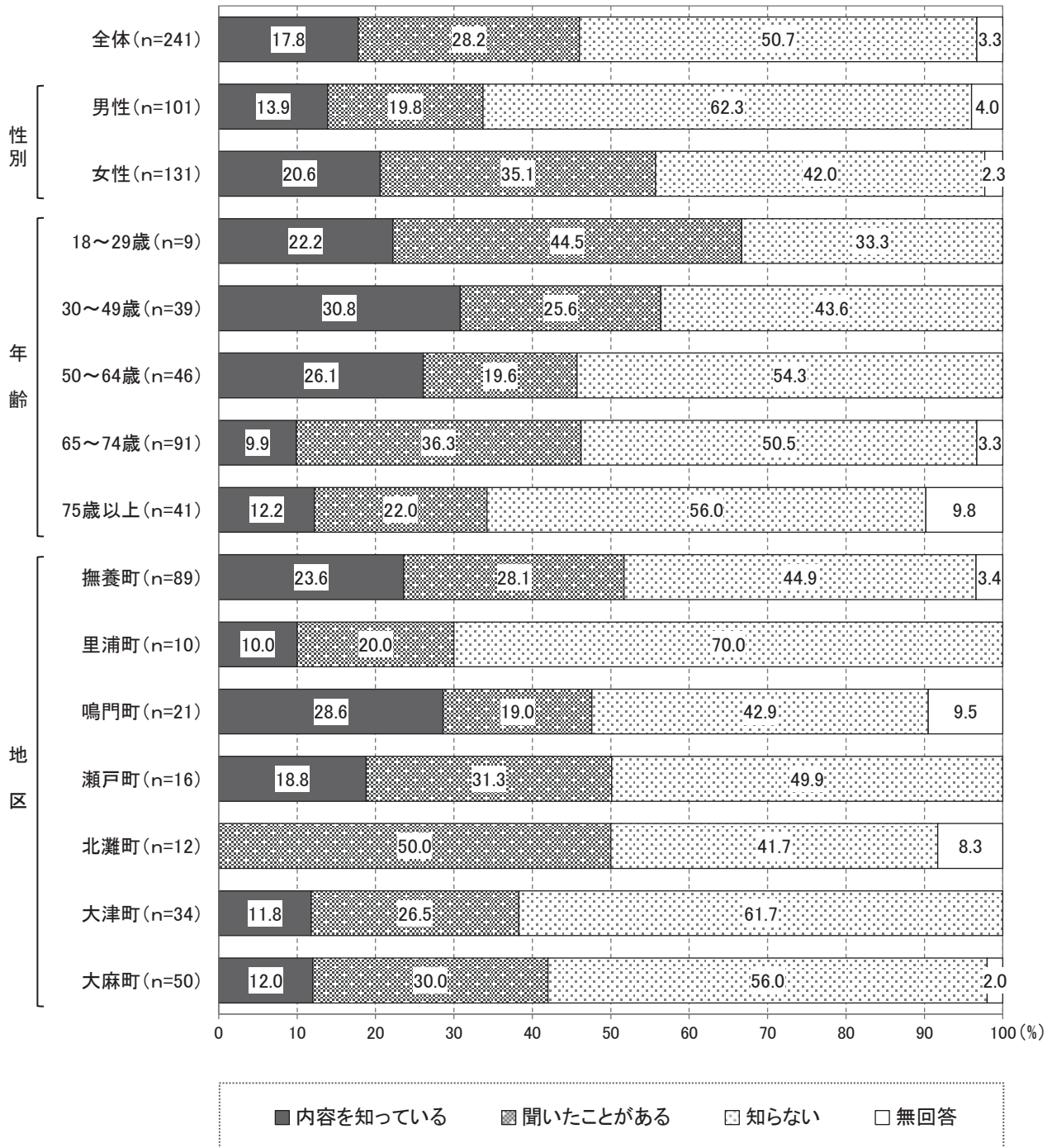
発達障がいのある本人やその家族への支援には、まわりの理解や環境が重要となりますが、発達障がいに対して市民の理解があると思いますか。

全体では、「あまり理解がないと思う」が45.2%と最も高く、次いで、「ある程度は理解があると思う」(40.4%)、「理解があるとは思わない」(12.6%)の順となっています。



問 24 「医療的ケア児」をご存知ですか。

全体では、「知らない」が50.7%と最も高く、次いで、「聞いたことがある」(28.2%)、「内容を知っている」(17.8%)の順となっています。

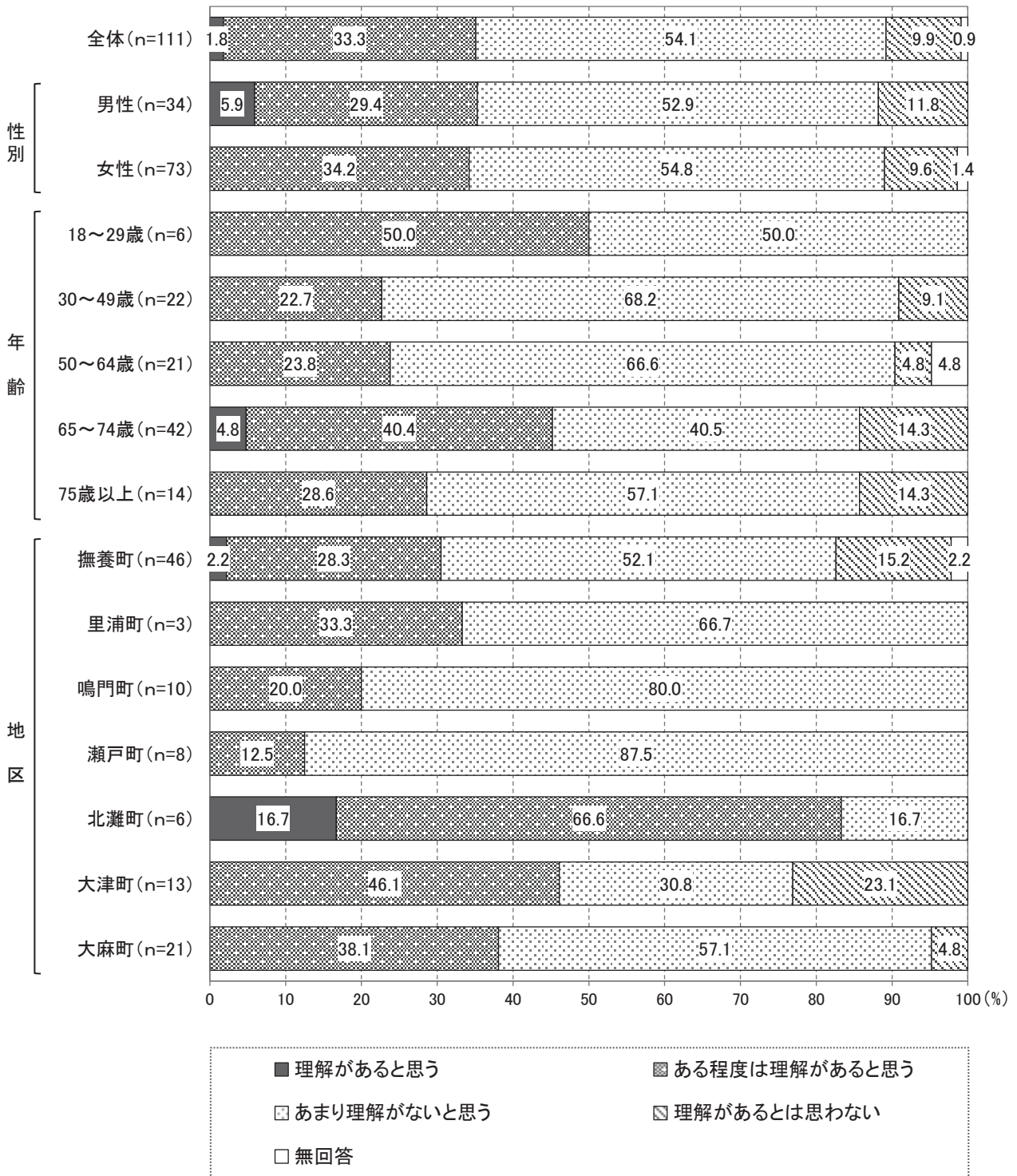


問 25

◆問 24 で「1.」または「2.」を選んだ方。

医療的ケアが必要な子どもやその家族への支援には、まわりの理解や環境が重要となりますが、医療的ケア児に対して市民の理解があると思いますか。

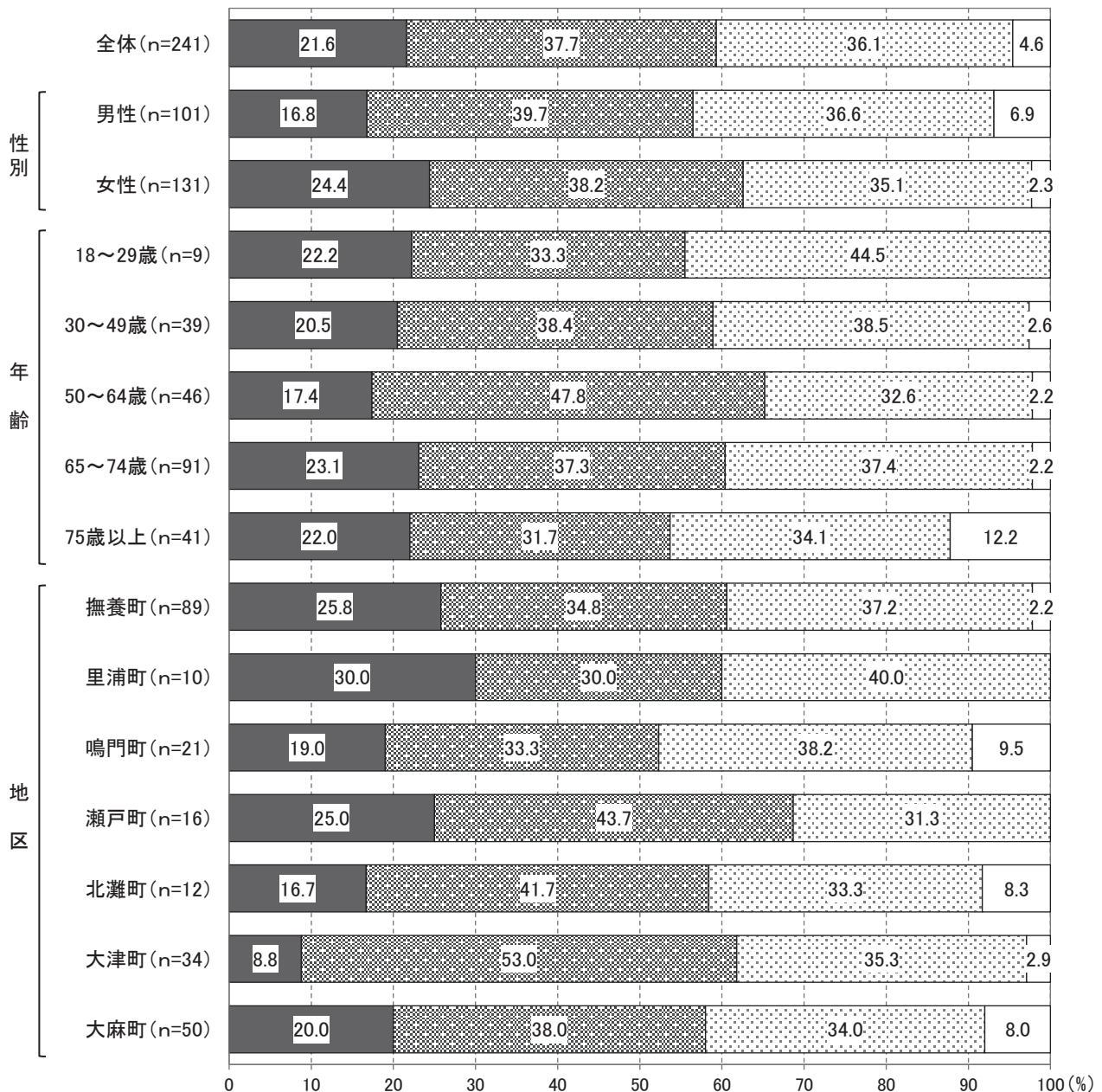
全体では、「あまり理解がないと思う」が54.1%と最も高く、次いで、「ある程度は理解があると思う」(33.3%)、「理解があるとは思わない」(9.9%)の順となっています。



問 26

障がいのある児童・生徒の療育（発達支援）、教育についてどれを優先的に取り組むべきと考えますか。

全体では、「障がいに応じた療育（発達支援）や教育を専門的に行う保育所（園）及び学校の充実」が37.7%と最も高く、次いで、「状況に応じて学ぶ場を変更できるしくみの充実」（36.1%）、「保育所（園）、学校、児童クラブなどへの障がい児の受け入れ拡充や共に学ぶ環境づくりの推進」（21.6%）の順となっています。

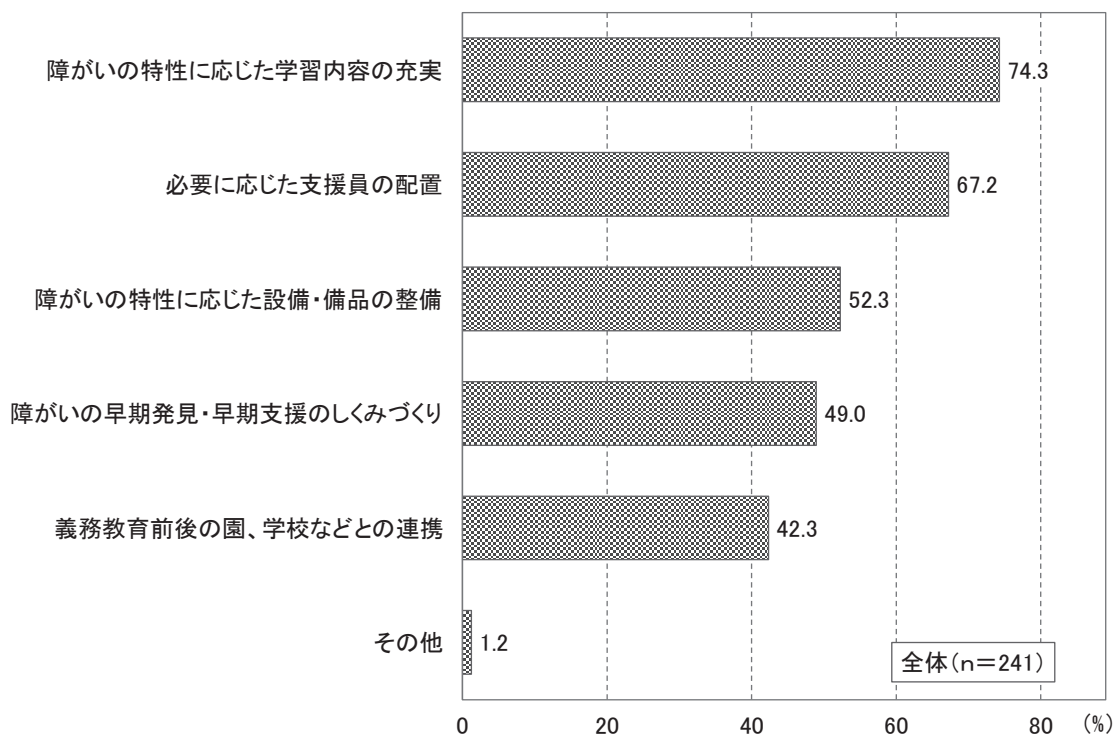


- 保育所（園）、学校、児童クラブなどへの障がい児の受け入れ拡充や共に学ぶ環境づくりの推進
- ▨ 障がいに応じた療育（発達支援）や教育を専門的に行う保育所（園）及び学校の充実
- ▤ 状況に応じて学ぶ場を変更できるしくみの充実
- 無回答

問 27

障がいのある児童・生徒が、義務教育の期間においていきいきと成長するには、
 どのような取り組みが必要だと思いますか。【複数回答可】

「障がいの特性に応じた学習内容の充実」が 74.3%と最も高く、次いで、「必要に応じた支援員の配置」(67.2%)、「障がいの特性に応じた設備・備品の整備」(52.3%)の順となっています。



主なその他意見

- ・ 障がいを理解した支援員を増やす。

◆ポイント

- ・ 認知度（内容を知っている）について、発達障がいは 52.7%と半数を超えていますが、医療的ケア児は 17.8%と約5人に1人という結果でした。あらゆる障がいについて、引き続き広報啓発に努める必要があります。
- ・ 義務教育における障がい児への取り組みについて、個々の障がいに応じた学習内容やサポートする支援員の配置が上位に挙げられています。これに加えて、障害に対応した施設整備や早期発見・早期支援、進学時の情報共有・連携の視点も重要であることから、成長段階に応じて障がい児の状態と特性に応じた支援を継続して行っていく体制づくりが求められます。

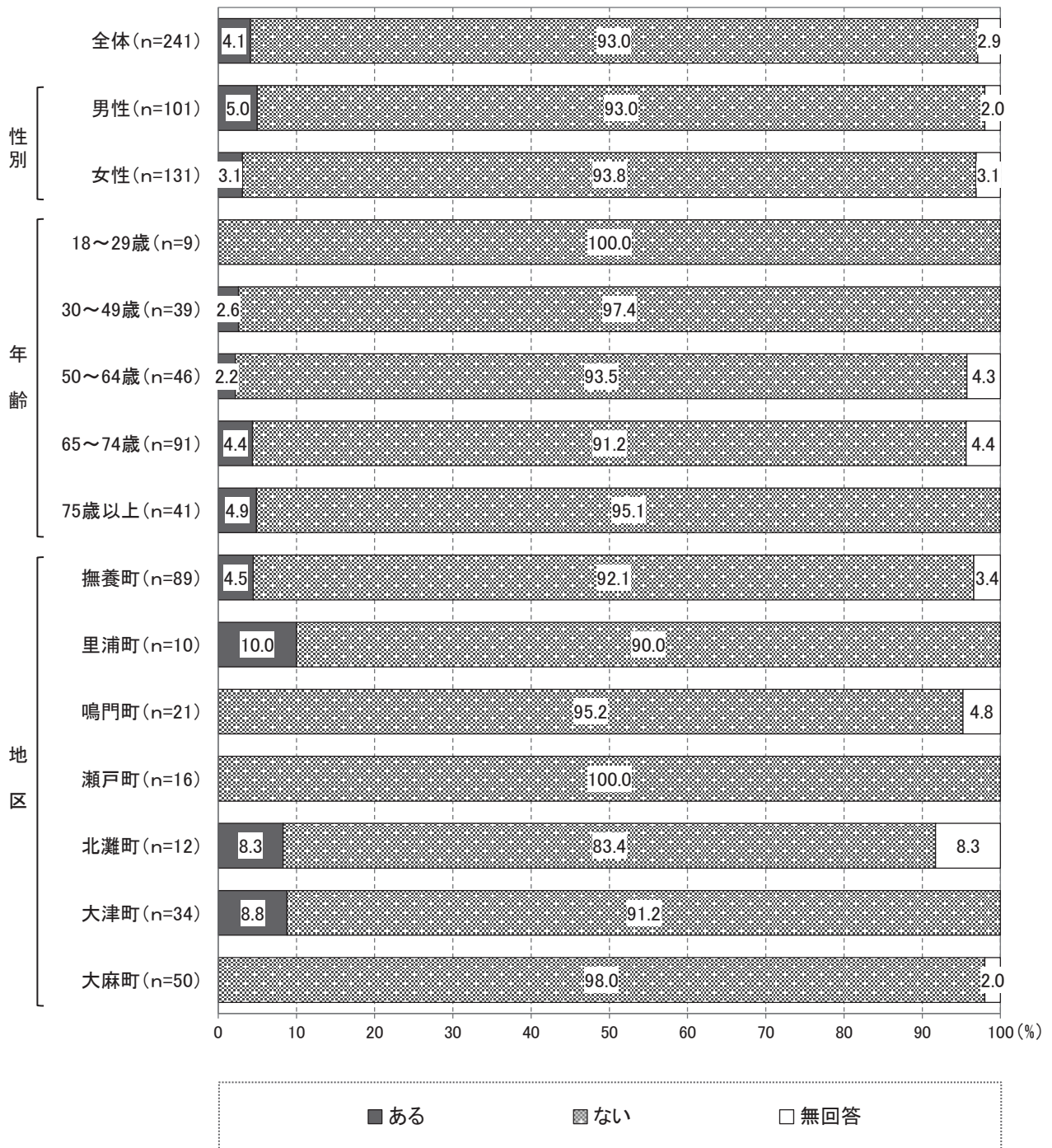
	(n=)	障 が い の 特 性 に 応 じ た 学 習 内 容 の 充 実	必 要 に 応 じ た 支 援 員 の 配 置	障 が い の 特 性 に 応 じ た 設 備 ・ 備 品 の 整 備	障 が い の 早 期 発 見 ・ 早 期 支 援 の し く み づ く り	義 務 教 育 前 後 の 園 ・ 学 校 な ど の 連 携	そ の 他
全体	241	179 74.3%	162 67.2%	126 52.3%	118 49.0%	102 42.3%	3 1.2%
男性	101	81 80.2%	62 61.4%	51 50.5%	50 49.5%	34 33.7%	2 2.0%
女性	131	91 69.5%	95 72.5%	70 53.4%	63 48.1%	64 48.9%	0 0.0%
18～29歳	9	5 55.6%	5 55.6%	3 33.3%	6 66.7%	7 77.8%	0 0.0%
30～49歳	39	29 74.4%	23 59.0%	24 61.5%	17 43.6%	24 61.5%	0 0.0%
50～64歳	46	40 87.0%	38 82.6%	25 54.3%	26 56.5%	19 41.3%	1 2.2%
65～74歳	91	68 74.7%	62 68.1%	48 52.7%	41 45.1%	34 37.4%	0 0.0%
75歳以上	41	27 65.9%	29 70.7%	19 46.3%	21 51.2%	13 31.7%	0 0.0%
撫養町	89	67 75.3%	57 64.0%	50 56.2%	44 49.4%	40 44.9%	0 0.0%
里浦町	10	7 70.0%	6 60.0%	4 40.0%	3 30.0%	5 50.0%	0 0.0%
鳴門町	21	16 76.2%	14 66.7%	12 57.1%	9 42.9%	10 47.6%	0 0.0%
瀬戸町	16	11 68.8%	12 75.0%	10 62.5%	8 50.0%	8 50.0%	1 6.3%
北灘町	12	7 58.3%	9 75.0%	6 50.0%	3 25.0%	3 25.0%	0 0.0%
大津町	34	30 88.2%	22 64.7%	14 41.2%	19 55.9%	11 32.4%	0 0.0%
大麻町	50	34 68.0%	37 74.0%	25 50.0%	27 54.0%	21 42.0%	1 2.0%

10. 障がいのある人への虐待について

問 28

近所の人や知り合いの障がいのある人が、虐待されているところを直に見たり聞いたりしたことがありますか。

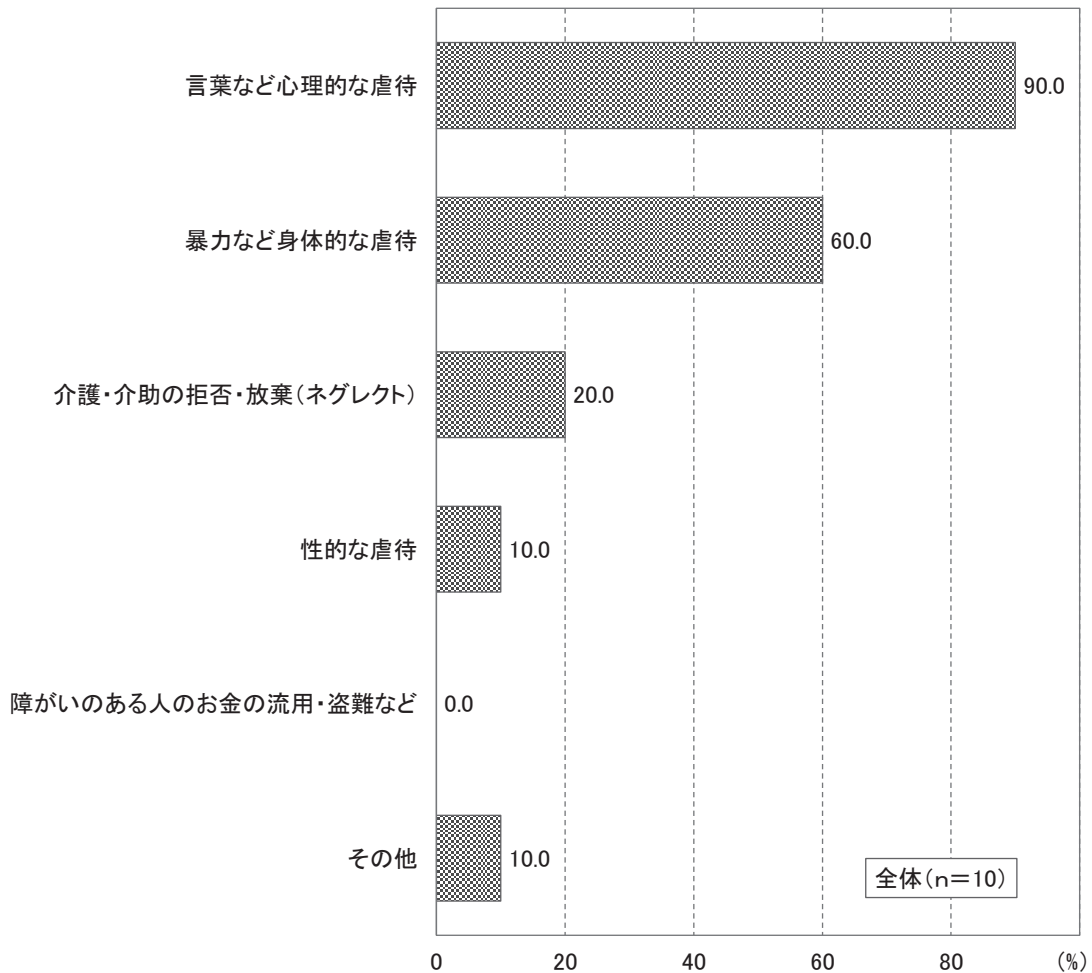
全体では、「ある」が4.1%、「ない」が93.0%となっています。



問 29

◆問 28 で「1.」（ある）を選んだ方。
それはどのような内容ですか。【複数回答可】

「言葉など心理的な虐待」が 90.0%と最も高く、次いで、「暴力など身体的な虐待」（60.0%）、
「介護・介助の拒否・放棄（ネグレクト）」（20.0%）の順となっています。



◆ポイント

障がいのある人が虐待されているのを見たり聞いたりしたことのある割合は 4.1%と少ない割合でしたが、その内容について、言葉や暴力等、見過ごすことの出来ない内容が含まれています。障がいのある人にもない人にも虐待という行為は決して許されるものではありません。市民一人一人が共生社会の実現に向けた取り組みを進められるよう、互いを認め尊重し合える気運を高めていく必要があります。

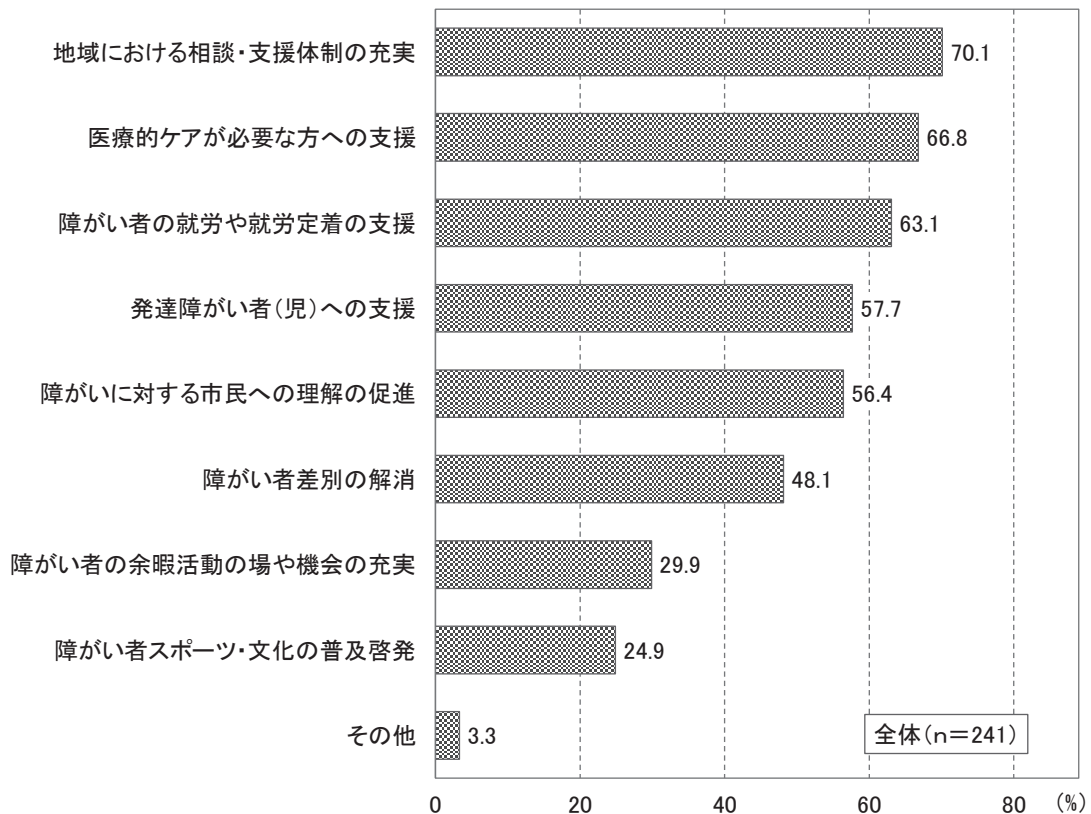
	(n=)	暴力など身体的な虐待	言葉など心理的な虐待	障がいのある人のお金の流用・盗難など	性的な虐待	介護・介助の拒否・放棄 (ネグレクト)	その他
全体	10	6 60.0%	9 90.0%	0 0.0%	1 10.0%	2 20.0%	1 10.0%
男性	5	4 80.0%	4 80.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%
女性	4	1 25.0%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
18～29歳	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30～49歳	1	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
50～64歳	1	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
65～74歳	4	3 75.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
75歳以上	2	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
撫養町	4	2 50.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%
里浦町	1	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
鳴門町	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
瀬戸町	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
北灘町	1	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
大津町	3	2 66.7%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%
大麻町	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

11. 市の施策について

問 30

障がいのある人が安心して住み続けられるまちづくりを進めるうえで、次のうちどれを優先的に取り組むべきだと思いますか。【複数回答可】

「地域における相談・支援体制の充実」が70.1%と最も高く、次いで、「医療的ケアが必要な方への支援」(66.8%)、「障がい者の就労や就労定着の支援」(63.1%)の順となっています。



主なその他意見

- ・ 保護者への心的・金銭的ケア。
- ・ 交通・外出がしにくい。
- ・ 障がいの有無に関係なく、自由に参加可能な場所・スポーツ。
- ・ 発達障がいは外からわかりにくく、人それぞれの支援の見極めが必要だ。
- ・ 障がい者(児)について小学校から学び、交流機会などを増やすことで理解を深められると考える。障がいの特性に応じたコミュニケーションの理解を深めることも重要。地域で障がい者(児)が安心して役割や生きがいを持って生活できる鳴門市になるよう取り組んでほしい。

◆ポイント

優先すべき市の施策について、相談・支援体制の充実、医療的ケアの支援、就労支援が上位に挙げられていますが、障がいのある人がライフステージに応じた適切な支援を受けられるよう、施策を総合的に展開して切れ目のない支援を行う必要があります。また、障がいのある人を単に支援を受ける「客体」として捉えるのではなく、支援を受けつつ自らの決定に基づき社会に参加する「主体」として捉えながら、施策を展開する視点も必要とされます。

	(n=)	地域における相談・支援体制の充実	医療的ケアが必要な方への支援	障がい者の就労や就労定着の支援	障がい者の余暇活動の場や機会の充実	障がいに対する市民への理解の促進	障がい者差別の解消	発達障がい者（児）への支援	障がい者スポーツ・文化の普及啓発	その他
全体	241	169 70.1%	161 66.8%	152 63.1%	72 29.9%	136 56.4%	116 48.1%	139 57.7%	60 24.9%	8 3.3%
男性	101	66 65.3%	62 61.4%	63 62.4%	28 27.7%	60 59.4%	45 44.6%	52 51.5%	25 24.8%	3 3.0%
女性	131	97 74.0%	94 71.8%	84 64.1%	43 32.8%	72 55.0%	69 52.7%	83 63.4%	32 24.4%	5 3.8%
18～29歳	9	5 55.6%	6 66.7%	5 55.6%	2 22.2%	7 77.8%	4 44.4%	7 77.8%	2 22.2%	0 0.0%
30～49歳	39	30 76.9%	21 53.8%	29 74.4%	12 30.8%	20 51.3%	18 46.2%	21 53.8%	10 25.6%	2 5.1%
50～64歳	46	34 73.9%	32 69.6%	33 71.7%	16 34.8%	29 63.0%	23 50.0%	32 69.6%	14 30.4%	2 4.3%
65～74歳	91	63 69.2%	64 70.3%	53 58.2%	27 29.7%	49 53.8%	47 51.6%	49 53.8%	19 20.9%	1 1.1%
75歳以上	41	29 70.7%	30 73.2%	23 56.1%	13 31.7%	25 61.0%	22 53.7%	25 61.0%	12 29.3%	2 4.9%
撫養町	89	64 71.9%	55 61.8%	64 71.9%	34 38.2%	50 56.2%	38 42.7%	51 57.3%	24 27.0%	4 4.5%
里浦町	10	7 70.0%	6 60.0%	4 40.0%	4 40.0%	4 40.0%	2 20.0%	5 50.0%	0 0.0%	1 10.0%
鳴門町	21	12 57.1%	13 61.9%	14 66.7%	7 33.3%	14 66.7%	13 61.9%	11 52.4%	8 38.1%	0 0.0%
瀬戸町	16	12 75.0%	13 81.3%	12 75.0%	3 18.8%	8 50.0%	12 75.0%	12 75.0%	4 25.0%	1 6.3%
北灘町	12	8 66.7%	7 58.3%	5 41.7%	2 16.7%	5 41.7%	5 41.7%	3 25.0%	1 8.3%	0 0.0%
大津町	34	23 67.6%	26 76.5%	20 58.8%	12 35.3%	21 61.8%	18 52.9%	21 61.8%	9 26.5%	0 0.0%
大麻町	50	37 74.0%	36 72.0%	28 56.0%	9 18.0%	30 60.0%	26 52.0%	32 64.0%	11 22.0%	2 4.0%

問31 最後に、障がい者（児）福祉へのご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

主な自由記述

- ・ 特性に応じた職につければ本人もやる気が出るように思う。（18～29 歳）
- ・ 一人ひとりが自分らしく生きていけるようになると、よりよい社会になると思う。その人にとってどのような選択をすればよいのかを常に考え関わっていければと思う。（18～29 歳）
- ・ もっと住みやすい町にしてほしい。（18～29 歳）
- ・ 一人ひとりの考え方が違うためまとめるのは大変と思うが、障がい者と健常者どちらかに偏った取り組みにならないようお願いしたい。（30～49 歳）
- ・ わかりやすくして利用しやすいものになることを望む。（30～49 歳）
- ・ 支援学校などの教育者の質が悪い。（30～49 歳）
- ・ わからないから諦めるのではなく、理解してもらうように教育していくことが大切。少しずつでも変わっていくと思うので鳴門が一番という政策を公募してほしい。（30～49 歳）
- ・ 健常者に障がい者のことがあまり浸透していないことが異常だ。障がい者が恥ずかしながら遠慮せず表に出られる社会をつくってほしい。（50～64 歳）
- ・ 発達障がい者に対してある程度の知識がないと対応は難しいということをテレビで見た。専門指導の下で、3 歳児健診などで早期発見し治療の流れができればある程度の効果が出るのではと思う。何歳ぐらいからその兆候が見られるのか教えてほしい。（50～64 歳）
- ・ 学校に、発達障がい児に対応してくれる先生を増やしてほしい。（50～64 歳）
- ・ 障がい者が地域で生活していくために受け入れやすい環境づくりが必要ではと思う。そのためにはハード整備も必要だが、その前に住民が寛容な心を持てるようなまちづくり、人づくりが必要だと思う。（50～64 歳）
- ・ ボランティアの教育。（50～64 歳）
- ・ ノーマライゼーション社会の認識と普及・啓発、支援制度の充実。（65～74 歳）
- ・ 障がい者に対する理解と仲間入り。（65～74 歳）
- ・ 障がいを持つ人も健常者もともに差別なく協力し合い、安心して笑顔で暮らしやすい地域づくりを鳴門市・地域住民と力をあわせ推進していきたい。（65～74 歳）
- ・ 障がいの特性に応じた設備、備品の整備、生活訓練などで周囲の人々に頼ることなく健常者と肩を並べて仕事や学習ができる状況が望ましい。（65～74 歳）
- ・ 障がいのある人の立場に立って考える人が増えるとよい。（65～74 歳）
- ・ 自分で生きているという実感を少しでもよいから持ってほしいと思う。達成感のある笑顔を見てみたいと思う。触れ合いの場も少ないと感じる。（65～74 歳）
- ・ 私自身も事故や病気で障がい者になる可能性がある。障がい者に寄り添い、できるだけのことをしていきたい。（65～74 歳）
- ・ 少し他人と違うという理由だけで笑ったり、他言する。その理由は鳴門が田舎だからではないか。そして誰もがこの差別を意識すべき。（75 歳以上）
- ・ 広報誌や新聞などで学ぶ機会も多くある。講演会や学習会を増やすことも大切だと思うが、それを自分のことと考えて参加者の輪が広がっていることが大切だ。難しいとは思いますが、支え合える社会を目指そう。（75 歳以上）

- ・トイレ、道路などの施設設備の充実と障がい者（児）への理解支援の充実が求められる。（75歳以上）
- ・福祉の前進には少子高齢化＝自由・平等・人権＝義務（財源）。育成と定着に気が遠くなるほど献身を必要とする。思いやりの見える鳴門市の活躍に期待する。（75歳以上）
- ・障がいと言っても多種多様であり、世話の中心は家族になるだろう。その家族への支援がどこまでできるのかが重要なポイントになると思う。（75歳以上）
- ・講演会などを企画し、関心のある人だけでなく市民の中で知識や理解がない人へ伝わるような方法を新しく考えることも、鳴門市障がい者福祉の理解を深めることになると思うので頑張してほしい。
（-）
- ・鳴門市には黒崎から板野まで旧道には一軒も店がない。障がい者でなくても買い物や病院に行くのに自動車・バスの回数が少なく不便だ。市で、障がい者や老人が乗車可能な乗り合いバスのようなものができれば便利だ。（-）
- ・以前、近所に障がい児がいたが、両親のうちの1人がかかりきりで病気の時には遠方の祖父母に頼っていた。預かる施設があればよいのにと考えていた。（-）
- ・障がい者にもっと心で接してほしい。言葉で叱る人がよくいるが、そういった親の生活を見てあげてほしい。（-）

調査票

障がいのある人に関する市民意識調査 ご協力をお願い

日頃から、鳴門市の福祉行政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

鳴門市では現在、令和6年度を初年度とする鳴門市障がい者計画、第7期鳴門市障がい福祉計画及び第3期鳴門市障がい児福祉計画の策定に向けた取り組みを進めています。つきましては、障がいのある人もない人も、それぞれの状態や立場を尊重して共に住みやすいまちづくりをめざすため、市民の皆様に対して計画策定にかかるアンケートを実施することとなりました。

調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和4年12月 鳴門市

調査の対象者は、市内にお住まいの18歳以上の方の中から700人を無作為抽出させていただきました。

この調査は無記名でご回答いただき、回答された方が特定されたり、個人の回答内容が明らかにされたりすることはありません。また、ご回答の内容は、計画策定および市の施策推進の基礎資料としてのみ使用し、そのほかの目的で使われることは一切ありません。

■ご記入にあたってのお願い

- 1 封筒の宛名のご本人がご回答ください。ご事情により、ご本人が直接回答することが難しい場合は、ご家族の方などがご本人の意向を尊重してご記入ください。
- 2 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。質問への回答方法は、それぞれ質問文に記載していますので、質問文をよく読んでお答えください。
- 3 質問によっては、特定の方だけに答えていただくものがあります。答えたくない質問などに対しては、無理にお答えいただかなくても結構です。
- 4 記入が終わりましたら、12月27日（火）までに同封の返信用封筒を使って無記名でご投函ください。切手は不要です。

◆アンケート調査についての問い合わせ先

鳴門市 健康福祉部 社会福祉課

電話：088-684-1145

FAX：088-684-1337

【問6は、問5で「1.」または「2.」（ある）を選んだ方】

問6 近年、障がいのある人への差別や偏見は改善されていると思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. かなり改善されていると思う | 2. ある程度は改善されていると思う |
| 3. あまり改善されていないと思う | 4. ほとんど改善されていないと思う |
| 5. わからない | |

問7 障がいのある人への理解を深めるため、どのようなことが大切だと考えますか。(当てはまる番号すべてに○)

- | | |
|--|-------------------------|
| 1. 子どもの頃から障がいのある人との交流機会を増やす | |
| 2. イベント、スポーツ、ボランティアなど障がいのある人との交流機会を増やす | |
| 3. 障がい者施設の地域住民への開放や地域住民との交流機会を増やす | |
| 4. 学校教育で障がいについて学ぶ機会を増やす | 5. 家庭教育で障がいについて学ぶ機会を増やす |
| 6. 障がいに関する講演会や学習会の開催 | 7. 広報紙、新聞などを活用した広報活動の充実 |
| 8. その他 () | |

問8 成年後見制度※ についてご存じですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| 1. 名前も内容も知っている⇒問9へ | 2. 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない⇒問10へ |
| 3. 名前も内容も知らない ⇒問10へ | |

※「成年後見制度」とは、認知症の高齢者や、知的障がい、精神障がいなどの理由で、ご自分で物事を判断する能力が十分でない方の、権利や財産を守るための制度です。

【問9は、問8で「1.」（名前も内容も知っている）を選んだ方】

問9 成年後見制度を利用しやすくするために、何が必要と考えられますか。(当てはまる番号すべてに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 情報提供・普及啓発の充実 | 2. 身近で相談できる場所や窓口 |
| 3. プライバシー保護の徹底 | 4. 手続きへのサポート |
| 5. 費用負担への支援 | 6. 後見人などの要件の緩和 |
| 7. 後見人などの不正防止の徹底 | 8. その他 () |

◆障がいのある人の地域生活について

問10 障がいのある人にとって鳴門市は住みやすい地域と思いますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 住みやすいと思う ⇒問12へ | 2. やや住みやすいと思う ⇒問12へ |
| 3. やや住みにくいと思う ⇒問11へ | 4. 住みにくいと思う ⇒問11へ |
| 5. わからない ⇒問12へ | |

【問11は、問10で「3.」または「4.」(住みにくい)を選んだ方】

問11 住みにくいと思う理由は何ですか。(当てはまる番号すべてに○)

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| 1. 地域住民の理解が少ない | 2. 道路や施設などの整備が遅れている |
| 3. 生活するうえでの支援サービスが少ない | 4. ボランティアなど支援者が少ない |
| 5. 公共交通機関が少ない(ない) | 6. 医療機関が少ない |
| 7. 近くにスーパーなど買い物ができる店が少ない(ない) | |
| 8. その他 () | |

問12 国は施設や病院にいる障がいのある人が地域での生活に移行すること(地域移行)を推進していますが、地域の理解はどの程度進んでいると思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|-------------|--------------|
| 1. 進んでいる | 2. 多少は進んでいる | 3. あまり進んでいない |
| 4. 進んでいない | 5. わからない | |

問13 障がいのある人が地域で生活するために、どのような支援があればよいと思いますか。(当てはまる番号すべてに○)

- | | |
|--------------------------------|--------------|
| 1. 在宅で医療的ケアなどが適切に得られること | |
| 2. 障がいのある人が共同生活を行うグループホームなどの確保 | |
| 3. 必要な在宅サービスが適切に利用できること | |
| 4. 生活訓練などの充実 | 5. 経済的な負担の軽減 |
| 6. 相談対応などの充実 | 7. 地域住民などの理解 |
| 8. 地域との交流や社会参加の機会の充実 | 9. 余暇活動の充実 |
| 10. コミュニケーションについての支援 | |
| 11. その他 () | |

◆障がいのある人への手助けについて

問14 あなたは、これまで障がいのある人の手助け（身内や業務として関わる場合を除く）をしたことがありますか。（○は1つ）

1. ある ⇒問15へ

2. ない ⇒問17へ

【問15～16は、問14で「1.」（ある）を選んだ方】

問15 あなたが実際に行った手助けは何ですか。（当てはまる番号すべてに○）

1. 階段などで手を貸したり車いすを押した

2. 荷物を代わりに持った

3. 身の回りの介助（着替え、食事など）

4. 外出時の付き添いや車での送迎をした

5. 家事援助（掃除、洗濯、調理など）

6. 日常の見守りや話し相手をした

7. 急病や災害などの緊急時の手助け

8. 代わりに電話をかけたり書類を書いた

9. 買い物の代行

10. 金銭の貸し付けや譲渡

11. 手話、要約筆記、点訳、朗読活動など

12. その他（ ）

問16 それはどのような思いからですか。（当てはまる番号すべてに○）

1. 身内などに障がいのある人がいて、その大変さを知っているから

2. 近所付き合いや友人付き合いのため

3. そうすることが当然と考えているから

4. 困っている人の世話をするのが好きだから

5. 将来、自分も障がいを持つ可能性があるから

6. なんとなく

7. その他（ ）

【問17は、問14で「2.」（ない）を選んだ方】

問17 それはどうしてですか。（当てはまる番号すべてに○）

1. これまで機会がなかった

2. 自分にとって負担になるような気がした

3. どうすればよいかわからなかった

4. お節介になる気がした

5. 専門の人や関係者に任せの方がよいと思った

6. 特に理由はない

7. その他（ ）

問18 今後、障がいのある人の手助けをしたいと思いますか。（○は1つ）

1. 現在していて、今後も続けたい ⇒問19へ

2. 機会があればしてみたい ⇒問19へ

3. したいと思わない ⇒問20へ

【問19は、問18で「1.」または「2.」を選んだ方】

問19 どのような手助けを今後したいですか。(当てはまる番号すべてに○)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 階段などで手を貸したり車いすを押す | 2. 荷物を代わりに持つ |
| 3. 身の回りの介助(着替え、食事など) | 4. 外出時の付き添いや車での送迎をする |
| 5. 家事援助(掃除、洗濯、調理など) | 6. 日常の見守りや話し相手をする |
| 7. 急病や災害などの緊急時の手助け | 8. 代わりに電話をかけたり書類を書く |
| 9. 買い物の代行 | 10. 金銭や不動産などの管理 |
| 11. 金銭の貸し付けや譲渡 | 12. 手話、要約筆記、点訳、朗読活動など |
| 13. その他 () | |

◆障がいのある人の就労について

問20 障がいのある人は仕事につきにくかったり、就労しても離職する率が高いと言われていますが、どのようなことが原因になっていると思いますか。(当てはまる番号すべてに○)

- | |
|---|
| 1. 企業や社会のしくみが効率や生産性を優先すること |
| 2. 障がいのある人の職業訓練や教育の機会が少ないこと |
| 3. 体調や勤務時間などへの配慮不足により、障がいのある人の就労意欲が失われること |
| 4. 通勤のための移動手段の確保ができないこと |
| 5. コミュニケーションのとりづらさから、職場での人間関係がうまくいかないこと |
| 6. 障がいのある人に対する仕事の質や量のマッチングがうまくいかないこと |
| 7. 障がいのある人の賃金が安いこと |
| 8. その他 () |

問21 障がいのある人にどのような就労支援が必要だと思いますか。
(当てはまる番号すべてに○)

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 通勤手段の確保 | 2. 勤務先のバリアフリーなどの配慮 |
| 3. 短時間勤務や勤務日数などの配慮 | 4. 在宅勤務の拡充 |
| 5. 職場の上司や同僚の障がいへの理解 | 6. 職場での介助や援助 |
| 7. 就労後の支援など職場と支援機関の連携 | 8. 企業ニーズに合った就労訓練 |
| 9. 就職や就労定着のための相談対応や支援 | 10. 賃金の保障 |
| 11. その他 () | |

「障がい者計画」・「障がい福祉計画」・
「障がい児福祉計画」策定のための
アンケート結果報告書【市民意識調査】

令和5年2月

企画・編集 鳴門市 健康福祉部 社会福祉課

